

松阪市

障がい福祉に関するアンケート調査
結果報告書
(障がい児対象)

令和2年3月

松 阪 市

目 次

I	調査の概要及び回答者の属性	1
1	調査の概要	1
(1)	調査目的	1
(2)	調査対象及び調査方法	1
(3)	配布数及び回収結果	1
2	本調査報告書の基本的な事項	1
(1)	数値の基本的な取り扱いについて	1
3	回答者と対象者の属性	2
(1)	回答者	2
(2)	対象者の性別	2
(3)	対象者の年齢	2
(4)	対象者の居住地域	3
II	調査結果	4
1	お子さんについて	4
(1)	対象者の居住する場所	4
(2)	同居者	5
(3)	主な介護者	6
(4)	障がいの種類	7
(5)	初めて手帳を交付された年齢	8
(6)	障がい等の種類	9
(7)	発達の不安や障がいに気づいたきっかけ	10
(8)	発達の不安や障がいがあるとわかった時に相談した人	12
(9)	現在受けている医療的ケア	13
(10)	医療で困っていること	14
(11)	歯や口腔の健康についての悩み・困りごとがあるか	16
2	療育・教育について	17
(1)	療育や教育で困っていること	17
(2)	保育所・幼稚園・学校や療育機関に充実してほしいこと	19
3	お子さんの将来について	21
(1)	希望する将来の暮らし方	21
(2)	仕事に就くために重要なこと	23
4	お子さんの日常生活や相談について	25
(1)	平日の日中の過ごし方	25
(2)	日常生活での困りごと	27
(3)	日常生活や困りごとを相談する人	29
(4)	ボランティアに依頼したいこと	31
5	住まいの状況や外出について	33

(1) 現在の住まいで困っていること.....	33
(2) 外出先で不便を感じる・困っていること.....	35
6 災害時の避難などについて.....	37
(1) 災害時の対応における不安.....	37
(2) 災害に備えて市が力を入れるべき取り組み.....	39
7 障がいのある人に対する理解について.....	41
(1) 障がいのある人に対する人々の理解は進んでいると思うか.....	41
(2) 日常生活で差別や偏見を感じることはあるか.....	43
(3) 差別や偏見を感じる場面.....	45
8 障害福祉サービスなどの利用について.....	47
(1) 障害支援区分の認定を受けているか.....	47
(2) 福祉制度やサービスを利用しているか.....	48
(3) 利用しているサービス.....	49
(4) 制度やサービスを利用する時に困っていること.....	51
(5) 制度やサービスを利用しない理由.....	53
(6) 利用したいサービス.....	54
(7) 障がいや福祉サービスなどに関する情報の入手先.....	56
(8) 特に充実してほしい情報.....	58
(9) 住みやすいまちづくりのために必要な取り組み.....	60

I 調査の概要及び回答者の属性

1 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、新たな「松阪市障がい者計画・障がい（児）福祉計画」の策定にあたって、福祉サービスの利用実態や福祉に関する意識、意向などを把握し、計画策定や施策推進に役立てるための基礎資料とするために実施した。

(2) 調査対象及び調査方法

項目	内容
調査対象	18 歳未満の障害者手帳所持者の保護者及び 18 歳未満の障害福祉サービスの利用者の保護者
配布数	400
抽出法	無作為抽出
調査方法	郵送法
調査時期	令和 2 年 2 月
調査地域	松阪市全域

(3) 配布数及び回収結果

配布数	400
有効回収数	178
有効回収率	44.5%

2 本調査報告書の基本的な事項

(1) 数値の基本的な取り扱いについて

①比率はすべて百分率（％）で表し、小数点以下 2 位を四捨五入して算出している。

従って、合計が 100％を上下する場合もある。

②基数となるべき実数は、“n＝〇〇〇”として掲載し、各比率は n を 100％として算出している。

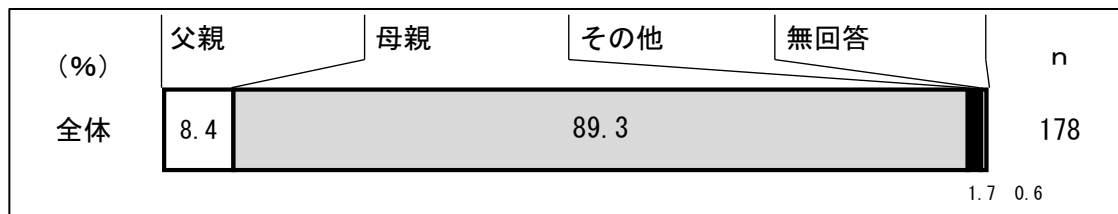
③質問の終わりに【複数回答】とある問は、1 人の回答者が 2 つ以上の回答を出しても良い問であり、従って各回答の合計比率は 100％を超える場合がある。

3 回答者と対象者の属性

(1) 回答者

回答者は、「母親」(89.3%)、「父親」(8.4%)、「その他」(1.7%) となっている。

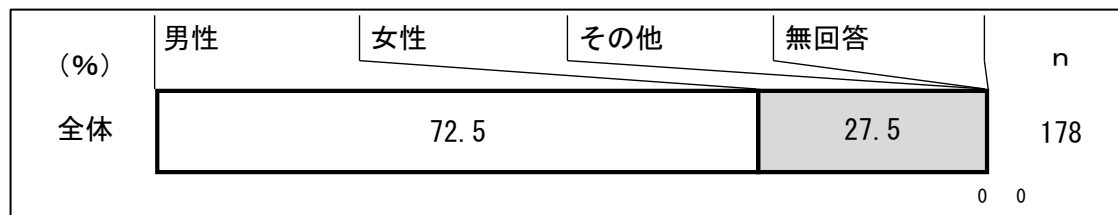
図表 回答者



(2) 対象者の性別

対象者の性別は、「男性」(72.5%)、「女性」(27.5%) となっている。

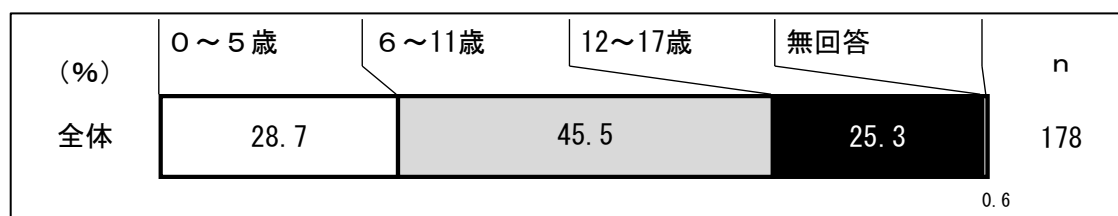
図表 対象者の性別



(3) 対象者の年齢

対象者の年齢は、「6～11歳」(45.5%)、「0～5歳」(28.7%)、「12～17歳」(25.3%) となっている。

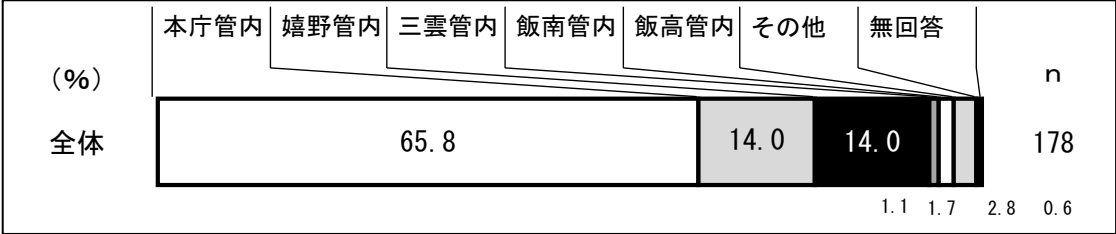
図表 対象者の年齢



(4) 対象者の居住地

対象者の居住地は、「本庁管内」(65.8%)、「嬉野管内」・「三雲管内」(同率 14.0%)、「飯高管内」(1.7%)、「飯南管内」(1.1%) となっている。

図表 対象者の居住地



Ⅱ 調査結果

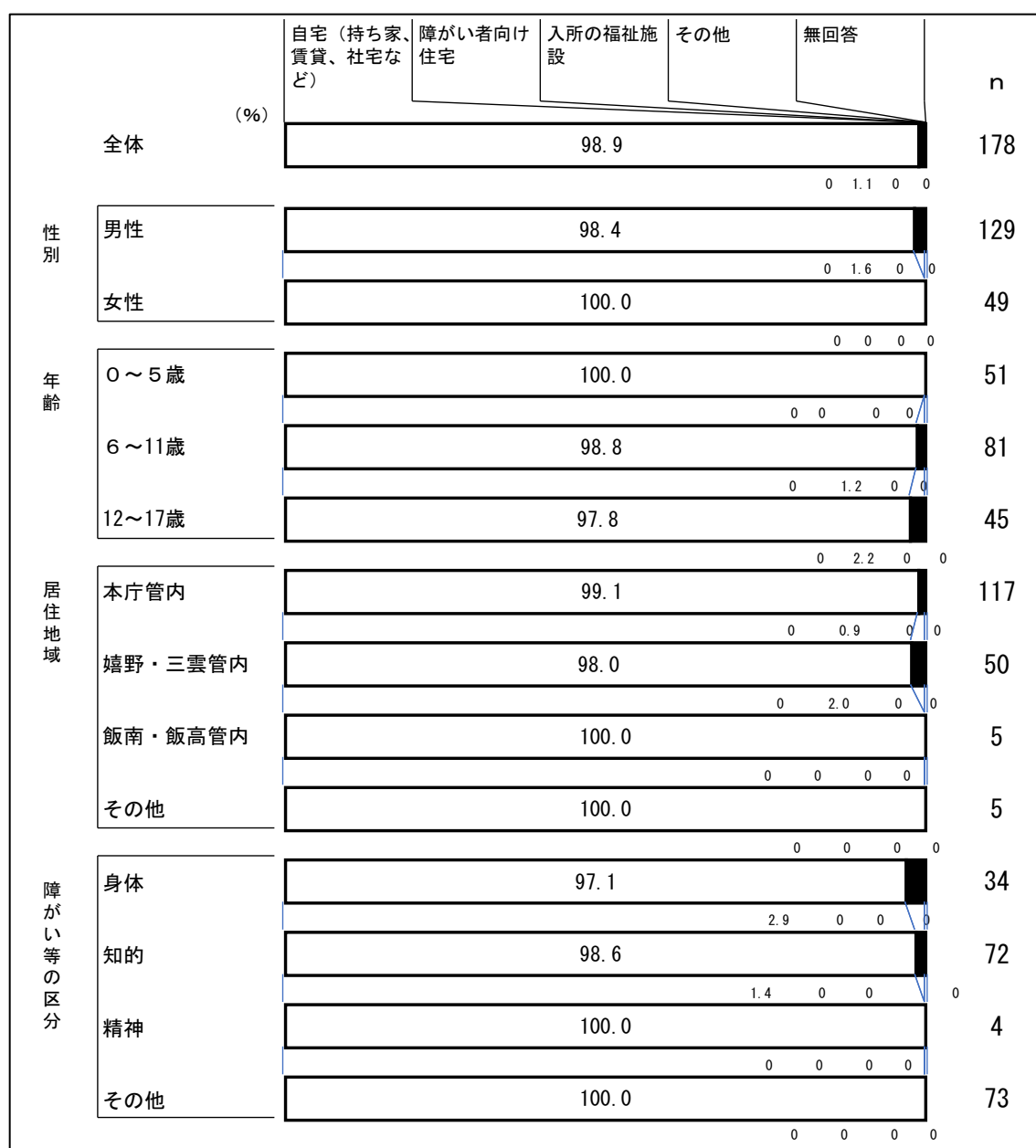
1 お子さんについて

(1) 対象者の居住する場所

問5 あて名のお子さんは現在、どこで暮らしていますか。(1つに○)

対象者の居住する場所は、「自宅（持ち家、賃貸、社宅など）」が98.9%、「入所の福祉施設」が1.1%となっている。

図表 対象者の居住する場所

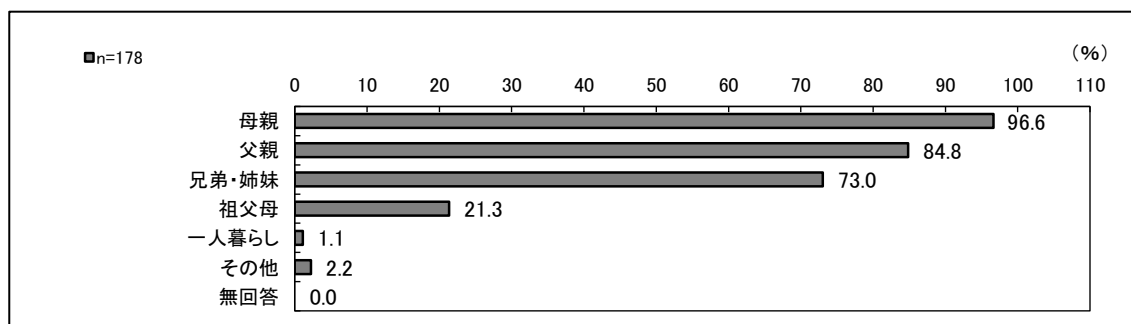


(2) 同居者

問6 あて名のお子さんは、どなたと暮らしていますか。お子さんからみた関係性（続柄）でお答えください。（問5で「2. 障がい者向け住宅」、「3. 入所の福祉施設」に○をつけた方は「1. 一人暮らし」に○をつけてください。）（あてはまるものすべてに○）
【複数回答】

同居者は、「母親」(96.6%) が最も多く、次いで「父親」(84.8%)、「兄弟・姉妹」(73.0%)、「祖父母」(21.3%)、「一人暮らし」(1.1%) となっている。

図表 同居者（全体／複数回答）

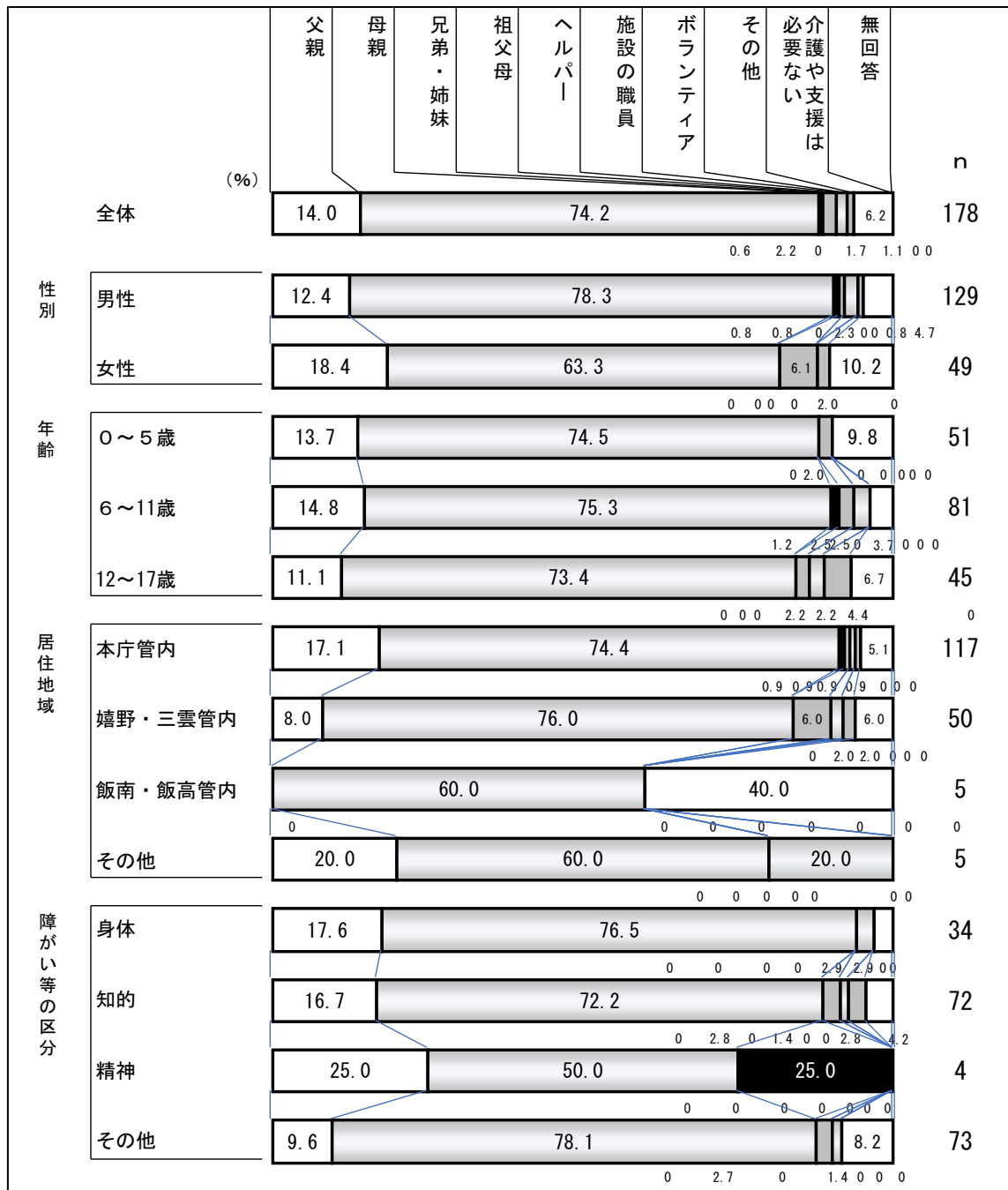


(3) 主な介護者

問7 あて名のお子さんの介護や支援を主に行っている方はどなたですか。お子さんから見た関係性（続柄）でお答えください。（1つに○）

主な介護者についてたずねたところ、「母親」が74.2%、「父親」が14.0%、「祖父母」が2.2%、「施設の職員」が1.7%となっている。

図表 主な介護者

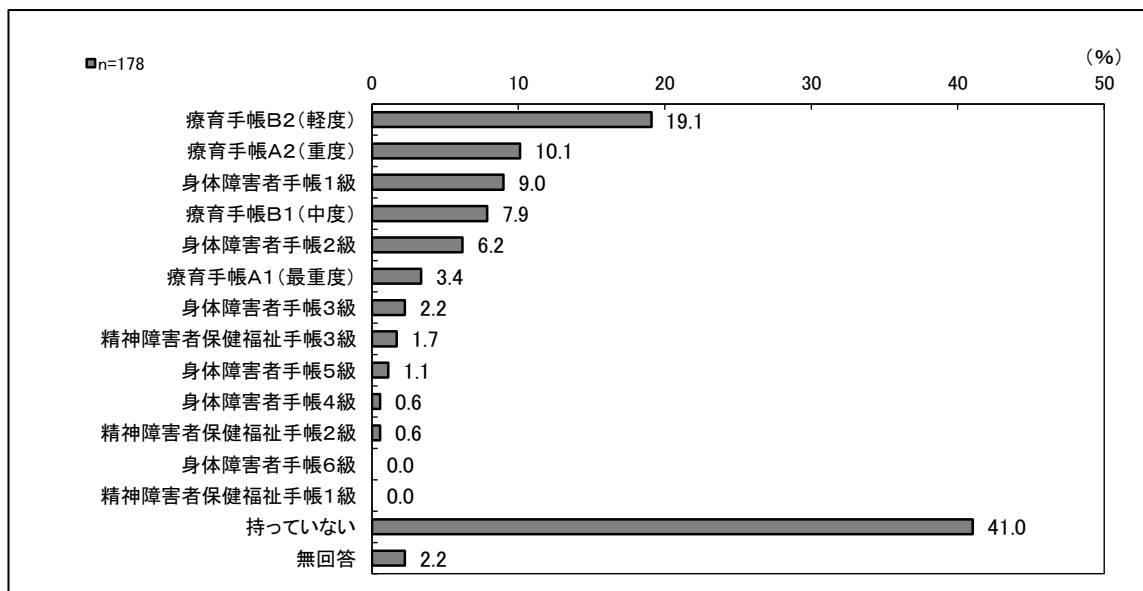


(4) 障がいの種類

問8 あて名のお子さんがお持ちの手帳についてお答えください。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

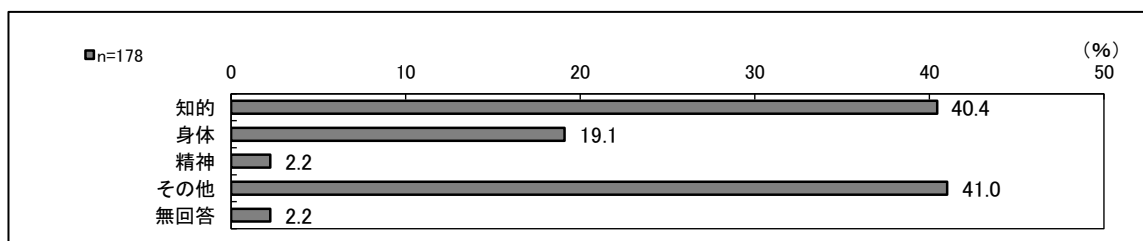
所持している障害者手帳についてたずねたところ、「療育手帳B2(軽度)」(19.1%)が最も多く、次いで「療育手帳A2(重度)」(10.1%)、「身体障害者手帳1級」(9.0%)、「療育手帳B1(中度)」(7.9%)、「身体障害者手帳2級」(6.2%)、「療育手帳A1(最重度)」(3.4%)、「身体障害者手帳3級」(2.2%)、「精神障害者保健福祉手帳3級」(1.7%)、「身体障害者手帳5級」(1.1%)、「身体障害者手帳4級」・「精神障害者保健福祉手帳2級」(同率0.6%)となっている。

図表 所持している障害者手帳（全体／複数回答）



所持している障害者手帳に基づいて障がいの種類を区分すると、「知的」が40.4%、「身体」が19.1%、「精神」が2.2%となっている。

図表 障がいの種類（全体／複数回答）



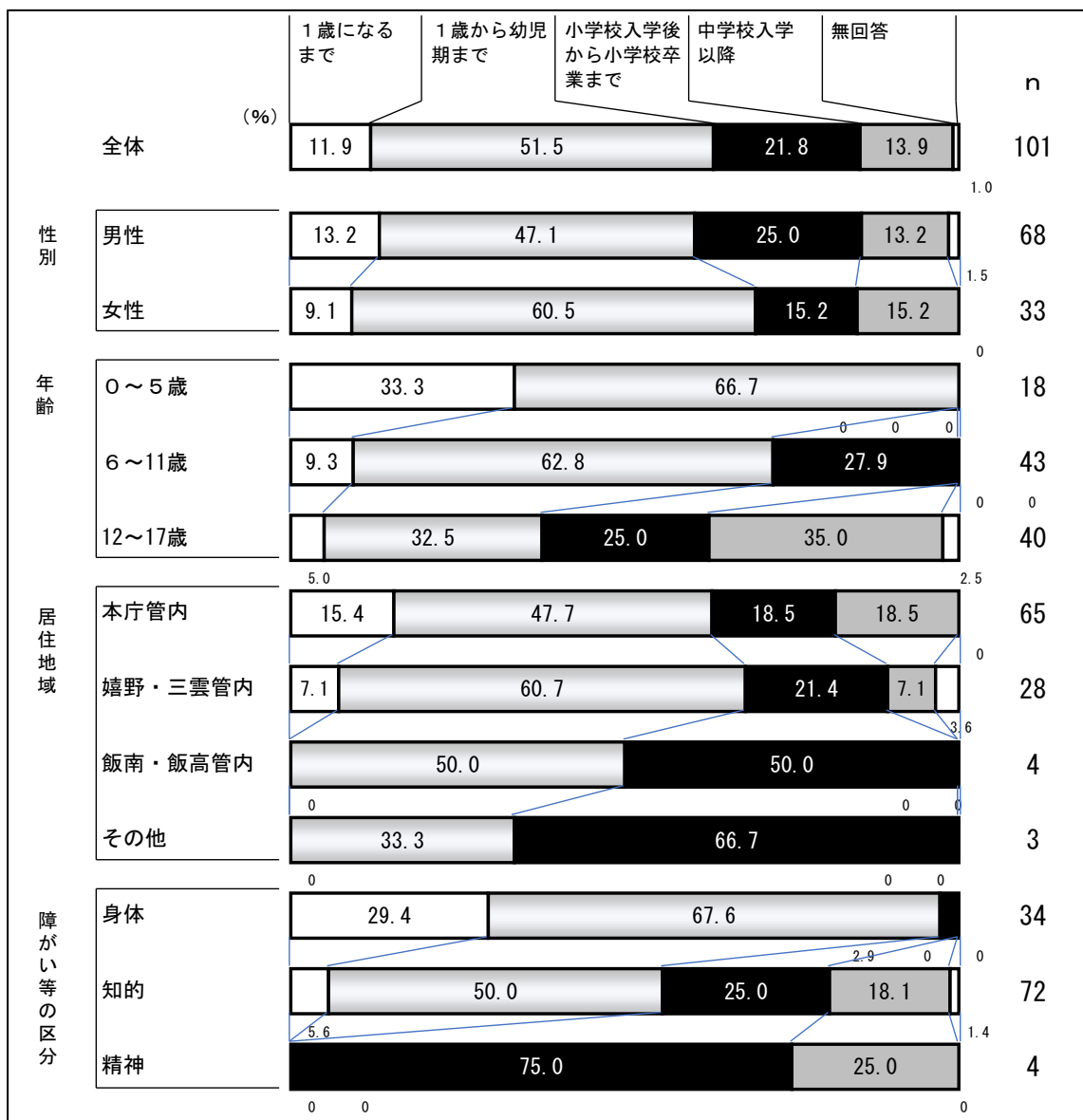
(5) 初めて手帳を交付された年齢

※問 8-1 は、問 8 で「1.」～「13.」に○をつけた方にうかがいます。
問 8-1 あて名のお子さんが障害者手帳を初めて交付されたのはいつですか。(1つに○)

- 「1歳から幼児期まで」が5割強を占める。

初めて手帳を交付された年齢についてたずねたところ、「1歳から幼児期まで」が51.5%、「小学校入学後から小学校卒業まで」が21.8%、「中学校入学以降」が13.9%、「1歳になるまで」が11.9%となっている。

図表 初めて手帳を交付された年齢



(6) 障がい等の種類

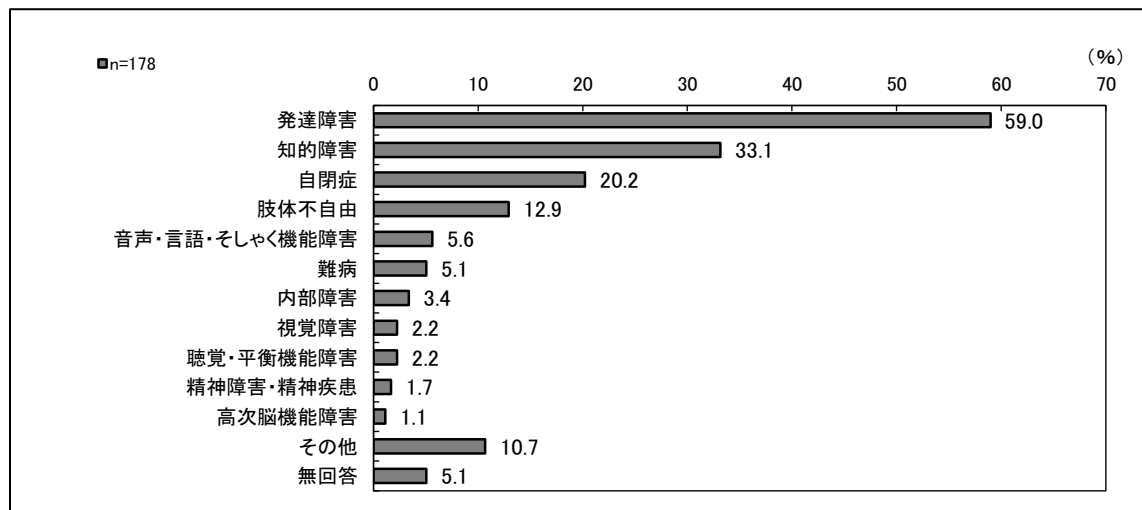
問9 あて名のお子さんの障がい等の種類についてお答えください。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】



- 「発達障害」が他を大きく引き離して第1位。

障がい等の種類についてたずねたところ、「発達障害」(59.0%)が最も多く、次いで「知的障害」(33.1%)、「自閉症」(20.2%)、「肢体不自由」(12.9%)、「音声・言語・そしゃく機能障害」(5.6%)、「難病」(5.1%)、「内部障害」(3.4%)、「視覚障害」・「聴覚・平衡機能障害」(同率 2.2%)、「精神障害・精神疾患」(1.7%)、「高次脳機能障害」(1.1%)となっている。

図表 障がい等の種類（全体／複数回答）



(7) 発達の不安や障がい気づいたきっかけ

問 10 あて名のお子さんの発達の不安や障がい気づいたきっかけは何ですか。(1つに○)

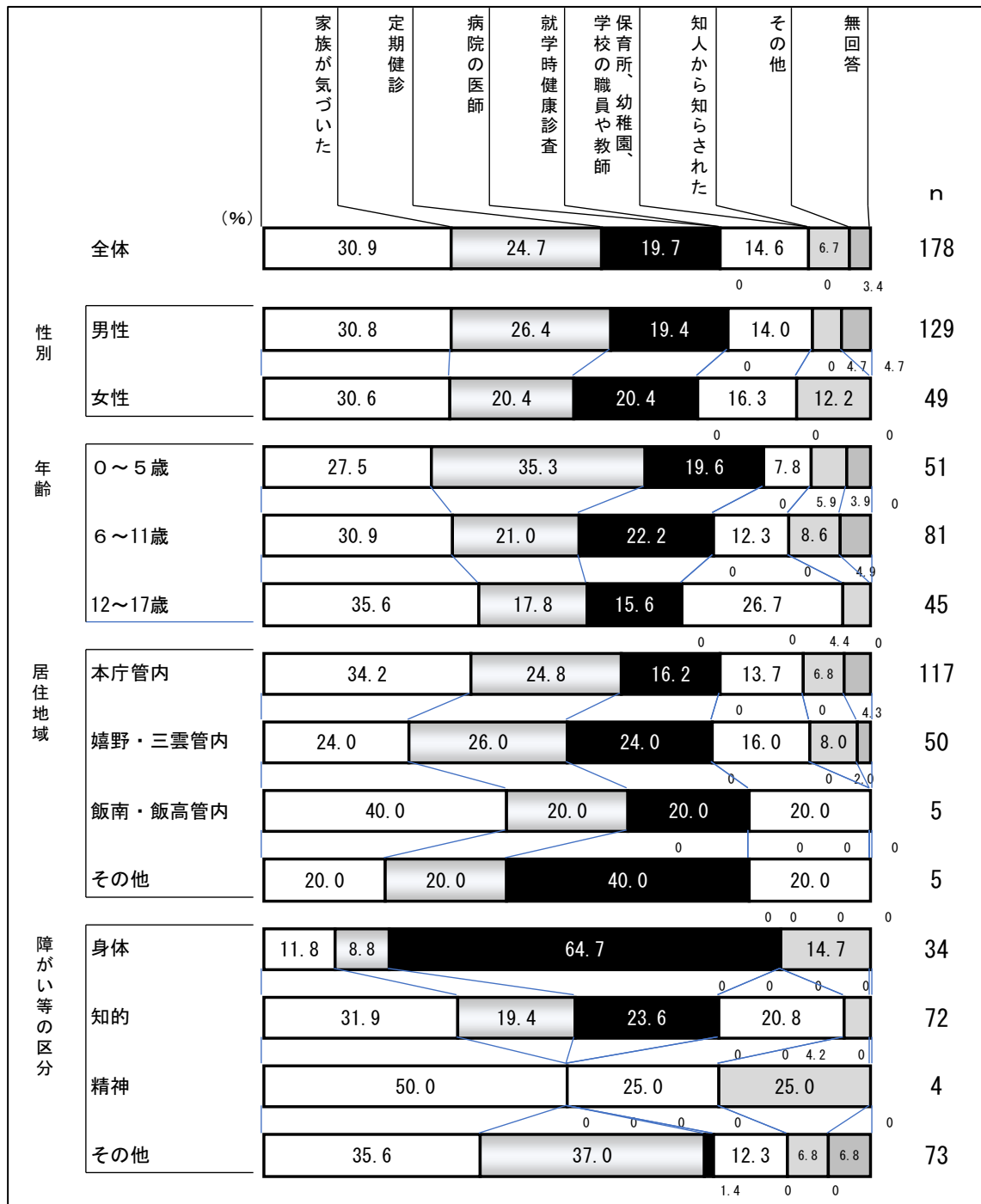


- 「家族が気づいた」が3割強、「定期健診」が2割強を占める。

発達の不安や障がい気づいたきっかけについてたずねたところ、「家族が気づいた」が30.9%、「定期健診」が24.7%、「病院の医師」が19.7%、「保育所、幼稚園、学校の職員や教師」が14.6%となっている。

障がい等の区分でみると、身体では「病院の医師」が64.7%となっている。

図表 発達の不安や障がい気づいたきっかけ



(8) 発達の不安や障がいがあるとわかった時に相談した人

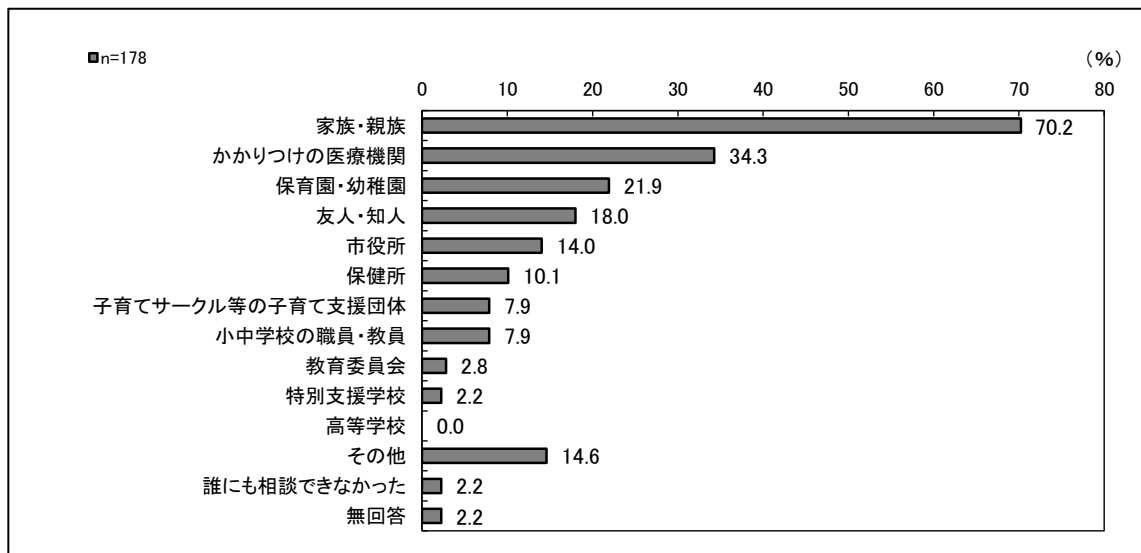
問 11 あて名のお子さんに発達の不安や障がいがあるとわかった時に、誰に相談しましたか。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】



- 「家族・親族」が他を大きく引き離して第1位。

発達の不安や障がいがあるとわかった時に相談した人についてたずねたところ、「家族・親族」(70.2%)が最も多く、次いで「かかりつけの医療機関」(34.3%)、「保育園・幼稚園」(21.9%)、「友人・知人」(18.0%)、「市役所」(14.0%)、「保健所」(10.1%)、「子育てサークル等の子育て支援団体」・「小中学校の職員・教員」(同率 7.9%)、「教育委員会」(2.8%)、「特別支援学校」(2.2%)となっている。

図表 発達の不安や障がいがあるとわかった時に相談した人（全体／複数回答）



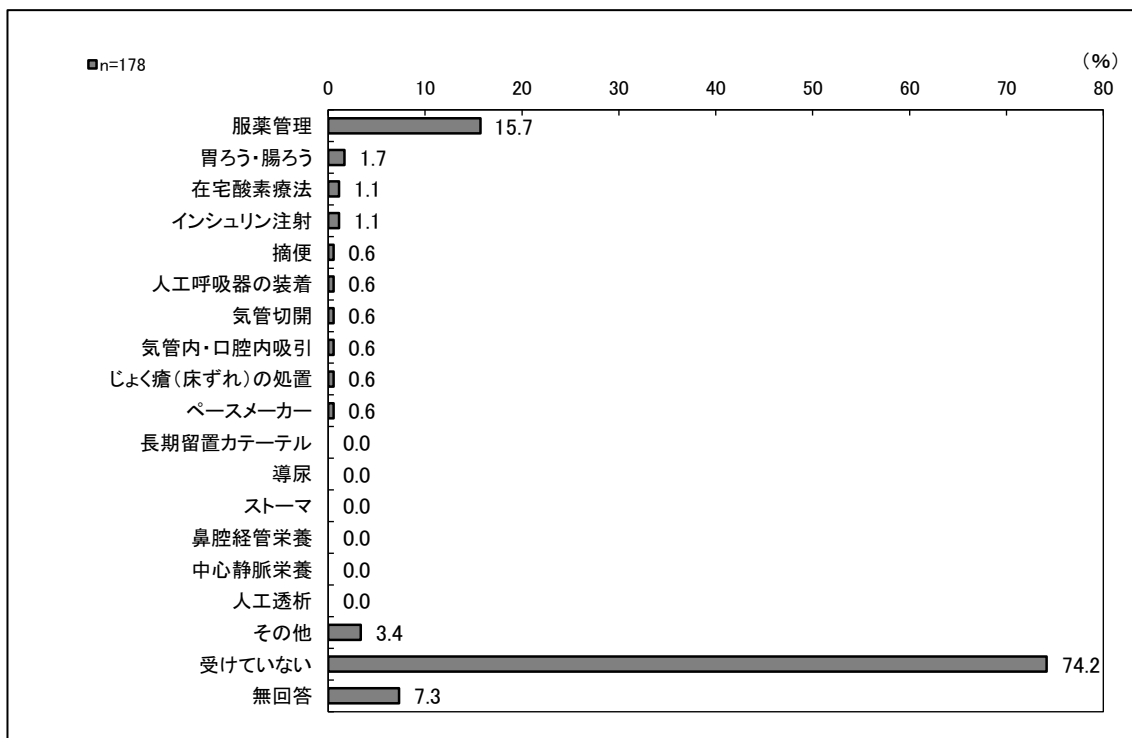
(9) 現在受けている医療的ケア

問 12 あて名のお子さんが現在受けている医療的ケアをお答えください。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

- 「服薬管理」が第1位。「受けていない」は74.2%を占める。

現在受けている医療的ケアについてたずねたところ、「服薬管理」(15.7%)が最も多く、次いで「胃ろう・腸ろう」(1.7%)、「在宅酸素療法」・「インシュリン注射」(同率1.1%)、「摘便」・「人工呼吸器の装着」・「気管切開」・「気管内・口腔内吸引」・「じょく瘡(床ずれ)の処置」・「ペースメーカー」(同率0.6%)となっている。

図表 現在受けている医療的ケア（全体／複数回答）



(10) 医療で困っていること

問 13 あて名のお子さんの医療について、困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)【複数回答】



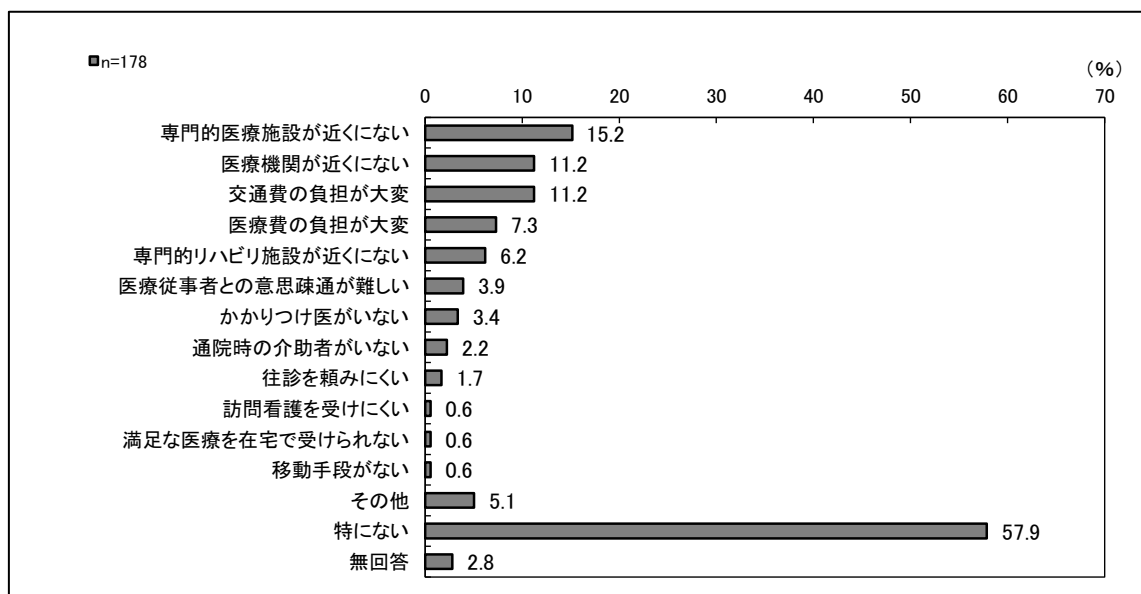
- 「専門的医療施設が近くにない」が第1位。「特にない」は57.9%を占める。

医療で困っていることについてたずねたところ、「専門的医療施設が近くにない」(15.2%)が最も多く、次いで「医療機関が近くにない」・「交通費の負担が大変」(同率11.2%)、「医療費の負担が大変」(7.3%)、「専門的リハビリ施設が近くにない」(6.2%)、「医療従事者との意思疎通が難しい」(3.9%)、「かかりつけ医がいない」(3.4%)、「通院時の介助者がいない」(2.2%)、「往診を頼みにくい」(1.7%)、「訪問看護を受けにくい」・「満足な医療を在宅で受けられない」・「移動手段がない」(同率0.6%)となっている。なお、「特にない」は57.9%となっている。

性別でみると、男性では「専門的利用施設が近くにない」が第1位となっているのに対し、女性では「医療機関が近くにない」が第1位となっている。

年齢でみると、0～5歳では「交通費の負担が大変」が第1位となっている。

図表 医療で困っていること（全体／複数回答）



図表 医療で困っていること（全体・属性別－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		専門的医療施設が近くにない 15.2	医療機関が近くにない／交通費の負担が大変 11.2	
性別	男性	専門的医療施設が近くにない 19.4	交通費の負担が大変 12.4	医療機関が近くにない 10.9
	女性	医療機関が近くにない 12.2	専門的リハビリ施設が近くにない 10.2	医療費の負担が大変／交通費の負担が大変 8.2
年齢	0～5歳	交通費の負担が大変 15.7	専門的医療施設が近くにない／医療機関が近くにない／医療費の負担が大変 5.9	
	6～11歳	専門的医療施設が近くにない 14.8	交通費の負担が大変 7.4	専門的リハビリ施設が近くにない／医療機関が近くにない／医療費の負担が大変／医療従事者との意思疎通が難しい 6.2
	12～17歳	専門的医療施設が近くにない／医療機関が近くにない 26.7	交通費の負担が大変 13.3	
居住地域	本庁管内	専門的医療施設が近くにない 15.4	交通費の負担が大変 12.8	医療機関が近くにない 11.1
	嬉野・三雲管内	専門的医療施設が近くにない 14.0	医療従事者との意思疎通が難しい 10.0	専門的リハビリ施設が近くにない／医療機関が近くにない 8.0
	飯南・飯高管内	医療機関が近くにない 60.0	専門的医療施設が近くにない／医療費の負担が大変／交通費の負担が大変 40.0	
	その他	かかりつけ医がいない／医療費の負担が大変 20.0		
障がい等の区分	身体	交通費の負担が大変 41.2	専門的医療施設が近くにない 17.6	専門的リハビリ施設が近くにない／医療機関が近くにない／医療費の負担が大変 14.7
	知的	専門的医療施設が近くにない 23.6	医療機関が近くにない 16.7	医療費の負担が大変／交通費の負担が大変 12.5
	精神	専門的医療施設が近くにない 75.0	医療機関が近くにない 50.0	専門的リハビリ施設が近くにない／医療費の負担が大変／交通費の負担が大変 25.0
	その他	専門的医療施設が近くにない 5.5	医療機関が近くにない 4.1	かかりつけ医がいない／医療従事者との意思疎通が難しい 2.7

(11) 歯や口腔の健康についての悩み・困りごとがあるか

問 14 あて名のお子さんの歯や口腔の健康について、悩みや困りごとはありますか。
(1つに○)

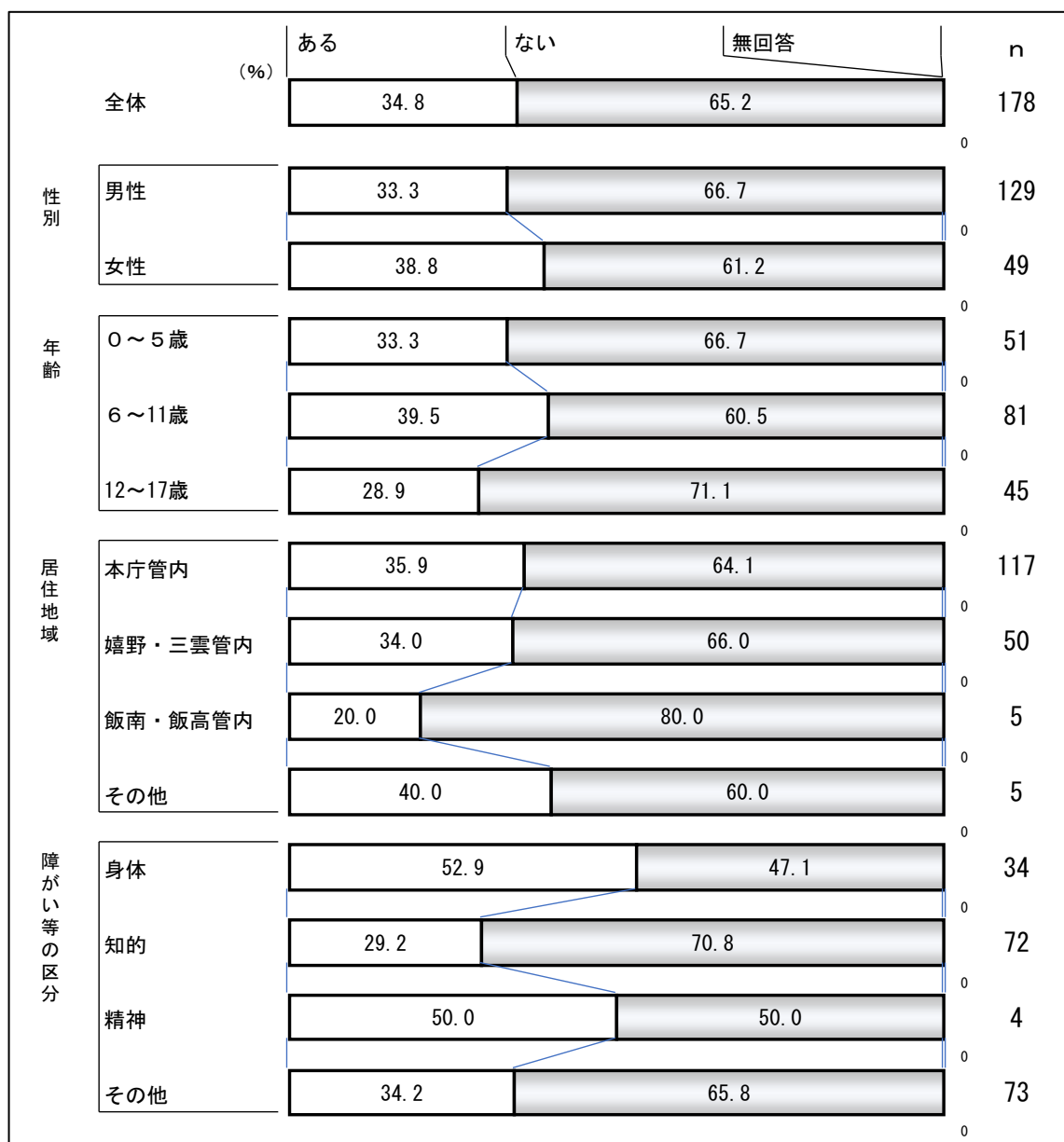


- 「ない」が7割弱、「ある」が3割強を占める。

歯や口腔の健康についての悩み・困りごとがあるかたずねたところ、「ない」が65.2%、「ある」が34.8%となっている。

年齢で見ると、6～11歳では「ある」が39.5%と、他の年齢層よりも高くなっている。
障がい等の区分で見ると、身体では「ある」が52.9%となっている。

図表 歯や口腔の健康についての悩み・困りごとがあるか



2 療育・教育について

(1) 療育や教育で困っていること

問 15 障がいのある子どもの療育や教育について、困っていることをお答えください。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

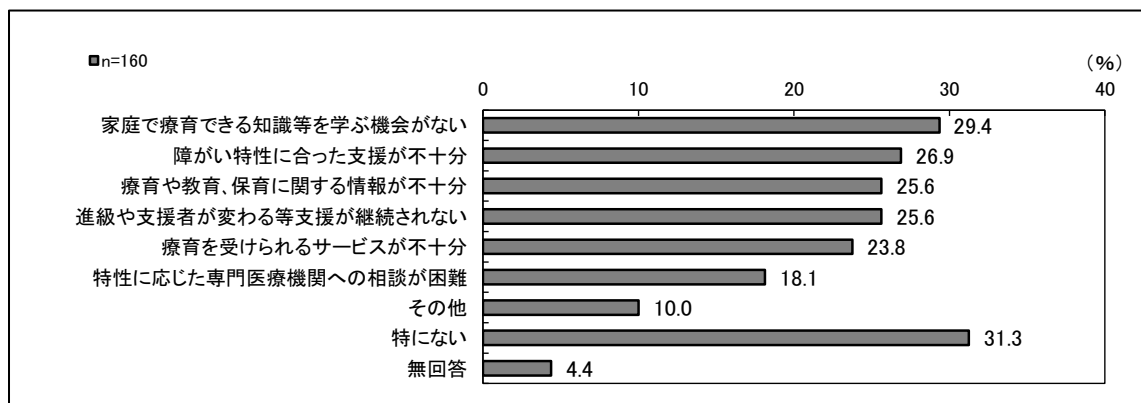
- 「家庭で療育できる知識等を学ぶ機会がない」が第1位。「特にない」は31.3%を占める。

療育や教育で困っていることについては、「家庭で療育できる知識等を学ぶ機会がない」(29.4%)が最も多く、次いで「障がい特性に合った支援が不十分」(26.9%)、「療育や教育、保育に関する情報が不十分」・「進級や支援者が変わる等支援が継続されない」(同率25.6%)、「療育を受けられるサービスが不十分」(23.8%)、「特性に応じた専門医療機関への相談が困難」(18.1%)となっている。なお、「特にない」は31.3%となっている。

性別でみると、男性では「障がい特性に合った支援が不十分」が第1位となっているのに対し、女性では「家庭で療育できる知識等を学ぶ機会がない」が第1位となっている。

年齢でみると、0～5歳では「療育や教育、保育に関する情報が不十分」が第1位となっているのに対し、6～11歳では「障がい特性に合った支援が不十分」が第1位となっている。12～17歳では「家庭で療育できる知識等を学ぶ機会がない」と「進級や支援者が変わる等支援が継続されない」が同率で第1位となっている。

図表 療育や教育で困っていること（全体／複数回答）



図表 療育や教育で困っていること（全体・属性別－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		家庭で療育できる知識等を学ぶ機会がない 29.4	障がい特性に合った支援が不十分 26.9	療育や教育、保育に関する情報が不十分／進級や支援者が変わる等支援が継続されない 25.6
性別	男性	障がい特性に合った支援が不十分 29.8	療育や教育、保育に関する情報が不十分／家庭で療育できる知識等を学ぶ機会がない 28.1	
	女性	家庭で療育できる知識等を学ぶ機会がない 32.6	進級や支援者が変わる等支援が継続されない 26.1	療育や教育、保育に関する情報が不十分／療育を受けられるサービスが不十分／障がい特性に合った支援が不十分 19.6
年齢	0～5歳	療育や教育、保育に関する情報が不十分 29.7	療育を受けられるサービスが不十分 24.3	家庭で療育できる知識等を学ぶ機会がない 21.6
	6～11歳	障がい特性に合った支援が不十分 37.2	家庭で療育できる知識等を学ぶ機会がない 35.9	進級や支援者が変わる等支援が継続されない 34.6
	12～17歳	家庭で療育できる知識等を学ぶ機会がない／進級や支援者が変わる等支援が継続されない 25.0		療育を受けられるサービスが不十分／特性に応じた専門医療機関への相談が困難 20.5
居住地域	本庁管内	家庭で療育できる知識等を学ぶ機会がない 27.6	障がい特性に合った支援が不十分 25.7	進級や支援者が変わる等支援が継続されない 23.8
	嬉野・三雲管内	療育や教育、保育に関する情報が不十分 36.4	療育を受けられるサービスが不十分／家庭で療育できる知識等を学ぶ機会がない 34.1	
	飯南・飯高管内	障がい特性に合った支援が不十分 60.0	家庭で療育できる知識等を学ぶ機会がない／進級や支援者が変わる等支援が継続されない 40.0	
	その他	家庭で療育できる知識等を学ぶ機会がない 20.0		
障がい等の区分	身体	進級や支援者が変わる等支援が継続されない 33.3	家庭で療育できる知識等を学ぶ機会がない 27.3	療育や教育、保育に関する情報が不十分／療育を受けられるサービスが不十分／障がい特性に合った支援が不十分 18.2
	知的	家庭で療育できる知識等を学ぶ機会がない 30.4	療育や教育、保育に関する情報が不十分／障がい特性に合った支援が不十分 26.1	
	精神	療育や教育、保育に関する情報が不十分／進級や支援者が変わる等支援が継続されない 66.7		療育を受けられるサービスが不十分／障がい特性に合った支援が不十分／特性に応じた専門医療機関への相談が困難／家庭で療育できる知識等を学ぶ機会がない 33.3
	その他	障がい特性に合った支援が不十分 33.3	家庭で療育できる知識等を学ぶ機会がない 31.7	療育や教育、保育に関する情報が不十分 28.3

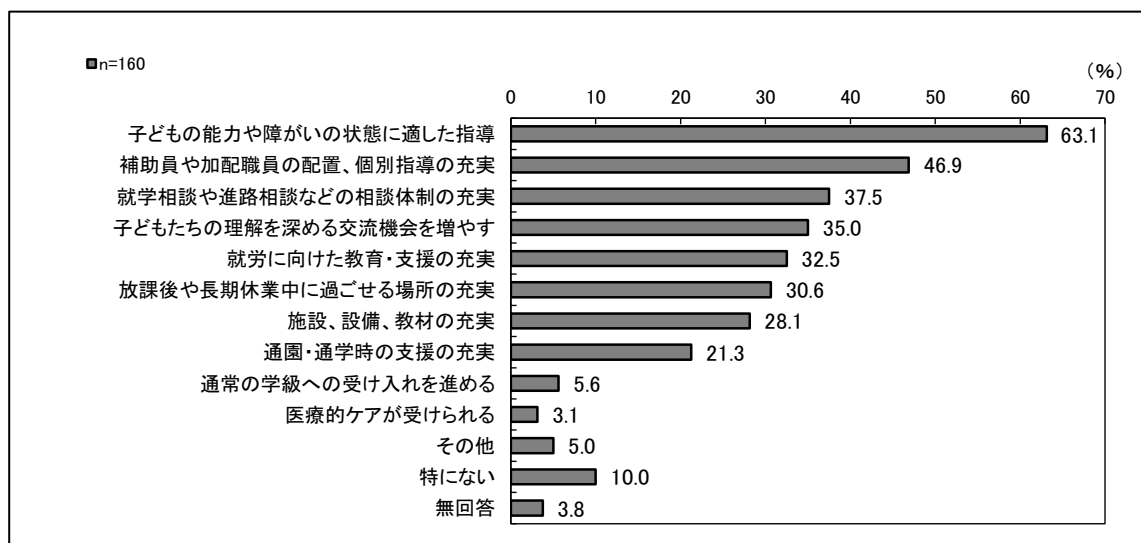
(2) 保育所・幼稚園・学校や療育機関に充実してほしいこと

問 16 保育所・幼稚園・学校や療育機関について、どのようなことを充実してほしいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

- 「子どもの能力や障がいの状態に適した指導」が第1位。「補助員や加配職員の配置、個別指導の充実」、「就学相談や進路相談などの相談体制の充実」などが続く。

保育所・幼稚園・学校や療育機関に充実してほしいことについてたずねたところ、「子どもの能力や障がいの状態に適した指導」(63.1%)が最も多く、次いで「補助員や加配職員の配置、個別指導の充実」(46.9%)、「就学相談や進路相談などの相談体制の充実」(37.5%)、「子どもたちの理解を深める交流機会を増やす」(35.0%)、「就労に向けた教育・支援の充実」(32.5%)、「放課後や長期休業中に過ごせる場所の充実」(30.6%)、「施設、設備、教材の充実」(28.1%)、「通園・通学時の支援の充実」(21.3%)、「通常の学級への受け入れを進める」(5.6%)、「医療的ケアが受けられる」(3.1%)の順となっている。なお、「特にない」は10.0%となっている。

図表 保育所・幼稚園・学校や療育機関に充実してほしいこと（全体／複数回答）



図表 保育所・幼稚園・学校や療育機関に充実してほしいこと

(全体・属性別－上位第3位／複数回答)

(単位：％)

		第1位	第2位	第3位
全体		子どもの能力や障がいの状態に適した指導 63.1	補助員や加配職員の配置、個別指導の充実 46.9	就学相談や進路相談などの相談体制の充実 37.5
性別	男性	子どもの能力や障がいの状態に適した指導 63.2	補助員や加配職員の配置、個別指導の充実 51.8	就学相談や進路相談などの相談体制の充実 39.5
	女性	子どもの能力や障がいの状態に適した指導 63.0	子どもたちの理解を深める交流機会を増やす 39.1	補助員や加配職員の配置、個別指導の充実 34.8
年齢	0～5歳	子どもの能力や障がいの状態に適した指導 56.8	補助員や加配職員の配置、個別指導の充実 48.6	放課後や長期休業中に過ごせる場所の充実 40.5
	6～11歳	子どもの能力や障がいの状態に適した指導 70.5	補助員や加配職員の配置、個別指導の充実 56.4	子どもたちの理解を深める交流機会を増やす 46.2
	12～17歳	子どもの能力や障がいの状態に適した指導 54.5	就学相談や進路相談などの相談体制の充実 43.2	放課後や長期休業中に過ごせる場所の充実 36.4
居住地域	本庁管内	子どもの能力や障がいの状態に適した指導 62.9	補助員や加配職員の配置、個別指導の充実 43.8	子どもたちの理解を深める交流機会を増やす 38.1
	嬉野・三雲管内	子どもの能力や障がいの状態に適した指導 65.9	補助員や加配職員の配置、個別指導の充実 50.0	就学相談や進路相談などの相談体制の充実 40.9
	飯南・飯高管内	子どもの能力や障がいの状態に適した指導／補助員や加配職員の配置、個別指導の充実 80.0	就学相談や進路相談などの相談体制の充実 60.0	就学相談や進路相談などの相談体制の充実 60.0
	その他	補助員や加配職員の配置、個別指導の充実 60.0	就学相談や進路相談などの相談体制の充実／子どもの能力や障がいの状態に適した指導 40.0	就学相談や進路相談などの相談体制の充実 40.0
障がい等の区分	身体	子どもの能力や障がいの状態に適した指導 69.7	子どもたちの理解を深める交流機会を増やす 42.4	補助員や加配職員の配置、個別指導の充実 39.4
	知的	子どもの能力や障がいの状態に適した指導 63.8	補助員や加配職員の配置、個別指導の充実 46.4	就労に向けた教育・支援の充実／子どもたちの理解を深める交流機会を増やす 39.1
	精神	就学相談や進路相談などの相談体制の充実／子どもの能力や障がいの状態に適した指導／補助員や加配職員の配置、個別指導の充実 66.7	就学相談や進路相談などの相談体制の充実 66.7	就学相談や進路相談などの相談体制の充実 66.7
	その他	子どもの能力や障がいの状態に適した指導 63.3	補助員や加配職員の配置、個別指導の充実 48.3	就学相談や進路相談などの相談体制の充実 40.0

3 お子さんの将来について

(1) 希望する将来の暮らし方

問 17 あて名のお子さんは、将来どこで暮らしてほしいですか。(1つに○)



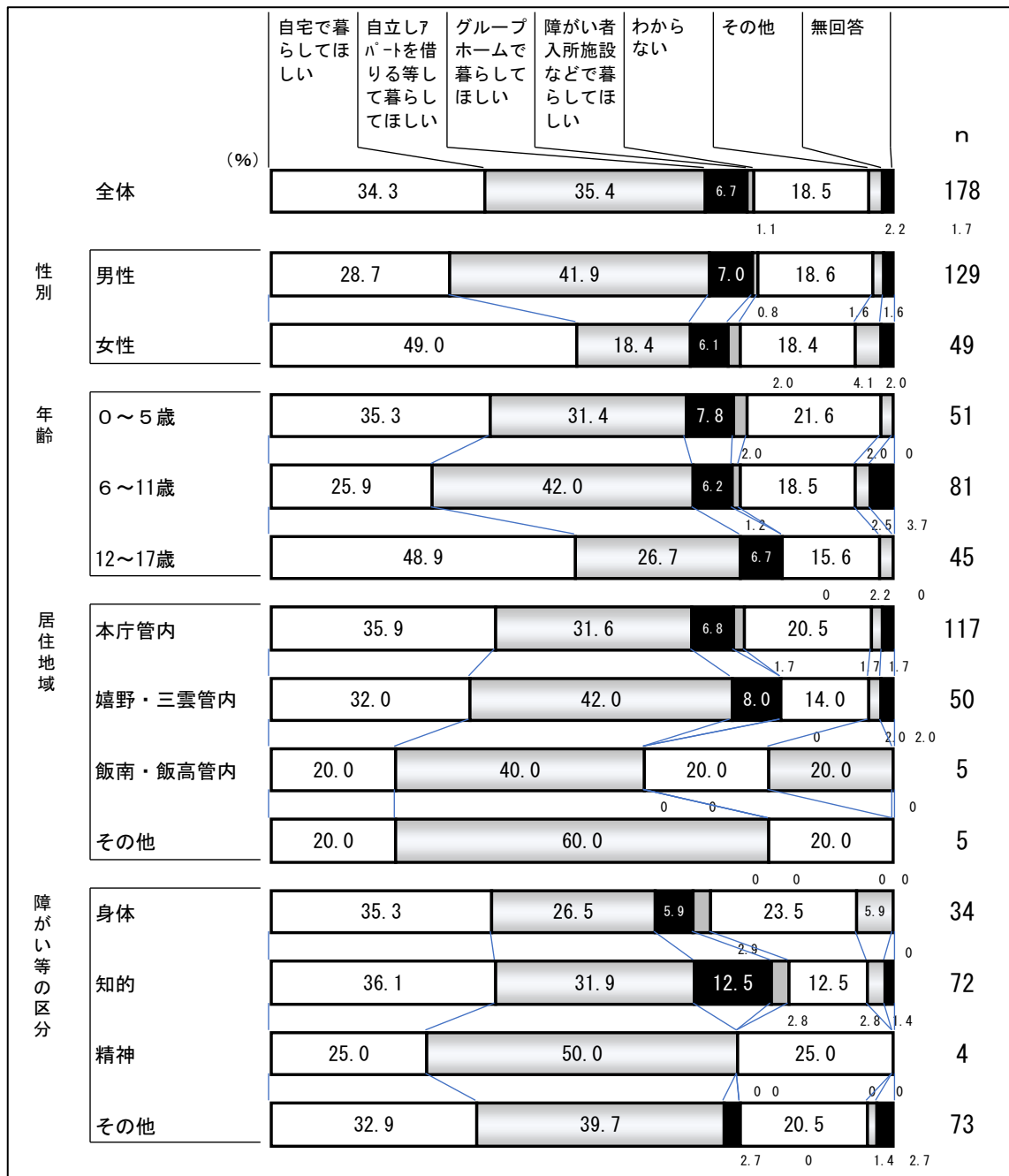
- 「自立しアパートを借りる等して暮らしてほしい」が4割弱で「自宅で暮らしてほしい」をわずかに上回る。

希望する将来の暮らし方については、「自立しアパートを借りる等して暮らしてほしい」が 35.4%、「自宅で暮らしてほしい」が 34.3%、「グループホームで暮らしてほしい」が 6.7%、「障がい者入所施設などで暮らしてほしい」が 1.1%となっている。なお、「わからない」は 18.5%となっている。

性別でみると、男性では「自立しアパートを借りる等して暮らしてほしい」が 41.9%を占めるのに対し、女性では 18.4%にとどまっている。女性の「自宅で暮らしてほしい」は 49.0%となっている。

年齢でみると、12～17 歳では「自宅で暮らしてほしい」が 48.9%となっている。

図表 希望する将来の暮らし方



(2) 仕事に就くために重要なこと

問 18 あて名のお子さんが将来仕事に就くために重要だと思われることは何(なん)ですか。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

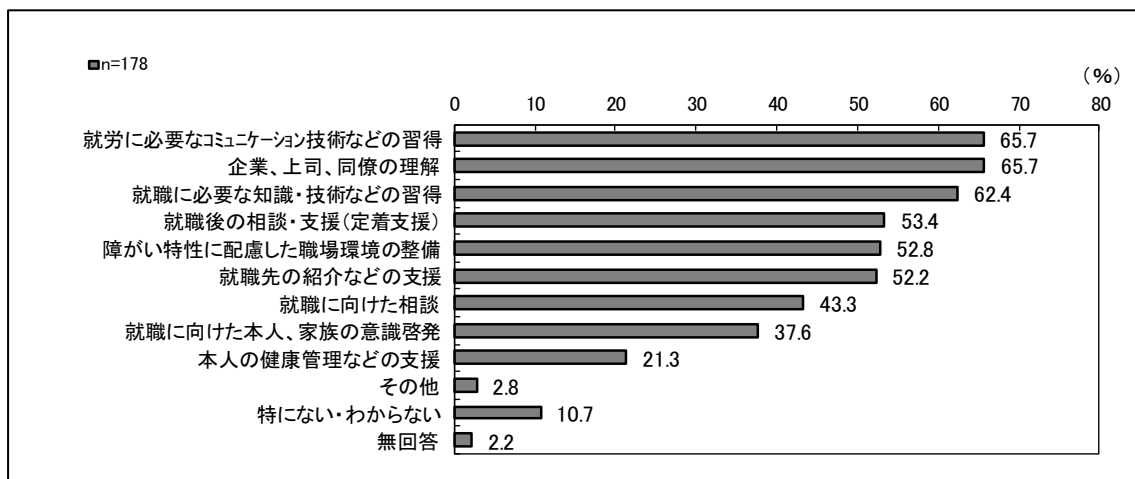
- 「就労に必要なコミュニケーション技術などの習得」・「企業、上司、同僚の理解」が同率で第1位。「就職に必要な知識・技術などの習得」、「就職後の相談・支援（定着支援）」などが続く。

仕事に就くために重要なことについてたずねたところ、「就労に必要なコミュニケーション技術などの習得」・「企業、上司、同僚の理解」（同率 65.7%）が最も多く、次いで「就職に必要な知識・技術などの習得」（62.4%）、「就職後の相談・支援（定着支援）」（53.4%）、「障がい特性に配慮した職場環境の整備」（52.8%）、「就職先の紹介などの支援」（52.2%）、「就職に向けた相談」（43.3%）、「就職に向けた本人、家族の意識啓発」（37.6%）、「本人の健康管理などの支援」（21.3%）の順となっている。なお、「特にない・わからない」は 10.7%となっている。

性別でみると、男性では「就労に必要なコミュニケーション技術などの習得」が第1位となっているのに対し、女性では「企業、上司、同僚の理解」が第1位となっている。

年齢でみると、11 歳以下では「就労に必要なコミュニケーション技術などの習得」が第1位となっているのに対し、12 歳以上では「就職後の相談・支援（定着支援）」が第1位となっている。

図表 仕事に就くために重要なこと（全体／複数回答）



図表 仕事に就くために重要なこと（全体・属性別－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		就労に必要なコミュニケーション技術などの習得／企業、上司、同僚の理解 65.7	就職に必要な知識・技術などの習得 62.4	
性別	男性	就労に必要なコミュニケーション技術などの習得 67.4	企業、上司、同僚の理解 65.9	就職に必要な知識・技術などの習得 62.8
	女性	企業、上司、同僚の理解 65.3	就職に必要な知識・技術などの習得／就労に必要なコミュニケーション技術などの習得／障がい特性に配慮した職場環境の整備／就職後の相談・支援（定着支援） 61.2	
年齢	0～5歳	就労に必要なコミュニケーション技術などの習得 62.7	就職に必要な知識・技術などの習得 60.8	企業、上司、同僚の理解 58.8
	6～11歳	就労に必要なコミュニケーション技術などの習得 74.1	企業、上司、同僚の理解 72.8	就職に必要な知識・技術などの習得 66.7
	12～17歳	就職後の相談・支援（定着支援） 66.7	企業、上司、同僚の理解 62.2	障がい特性に配慮した職場環境の整備 57.8
居住地域	本庁管内	就労に必要なコミュニケーション技術などの習得 66.7	企業、上司、同僚の理解 65.0	就職に必要な知識・技術などの習得 60.7
	嬉野・三雲管内	就職に必要な知識・技術などの習得／企業、上司、同僚の理解 68.0	就労に必要なコミュニケーション技術などの習得 66.0	
	飯南・飯高管内	障がい特性に配慮した職場環境の整備／企業、上司、同僚の理解 80.0	就職に必要な知識・技術などの習得／就労に必要なコミュニケーション技術などの習得／本人の健康管理などの支援／就職後の相談・支援（定着支援） 60.0	
	その他	就職に向けた相談／就職先の紹介などの支援／就職に必要な知識・技術などの習得／就労に必要なコミュニケーション技術などの習得／障がい特性に配慮した職場環境の整備 60.0		
障がい等の区分	身体	企業、上司、同僚の理解 64.7	障がい特性に配慮した職場環境の整備 61.8	就職後の相談・支援（定着支援） 50.0
	知的	就労に必要なコミュニケーション技術などの習得 72.2	就職後の相談・支援（定着支援） 70.8	障がい特性に配慮した職場環境の整備／企業、上司、同僚の理解 69.4
	精神	就労に必要なコミュニケーション技術などの習得／就職後の相談・支援（定着支援）／企業、上司、同僚の理解 100.0		
	その他	就職に必要な知識・技術などの習得 64.4	就労に必要なコミュニケーション技術などの習得 63.0	企業、上司、同僚の理解 57.5

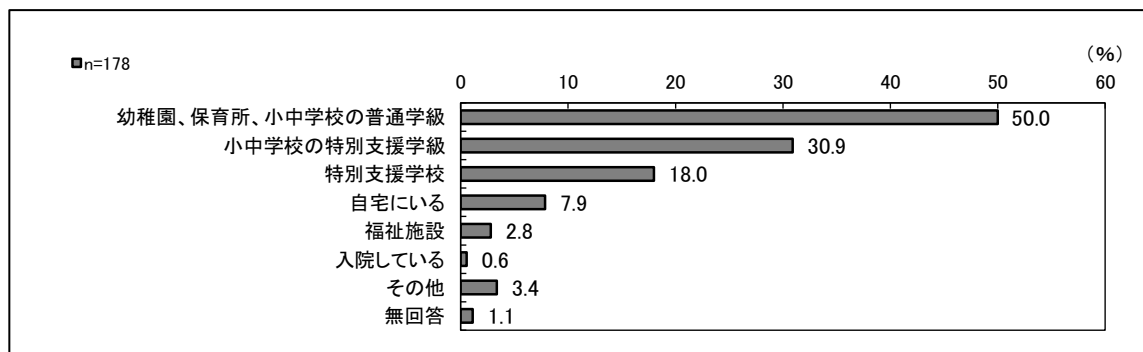
4 お子さんの日常生活や相談について

(1) 平日の日中の過ごし方

問 19 あて名のお子さんは、平日の日中をどのように過ごしていますか。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

平日の日中の過ごし方についてたずねたところ、「幼稚園、保育所、小中学校の普通学級」(50.0%)、「小中学校の特別支援学級」(30.9%)、「特別支援学校」(18.0%)、「自宅にいる」(7.9%)、「福祉施設」(2.8%)、「入院している」(0.6%)の順となっている。

図表 平日の日中の過ごし方（全体／複数回答）



図表 平日の日中の過ごし方（全体・属性別－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第 1 位	第 2 位	第 3 位
全体		幼稚園、保育所、小中学校の普通学級 50.0	小中学校の特別支援学級 30.9	特別支援学校 18.0
性別	男性	幼稚園、保育所、小中学校の普通学級 53.5	小中学校の特別支援学級 29.5	特別支援学校 14.0
	女性	幼稚園、保育所、小中学校の普通学級 40.8	小中学校の特別支援学級 34.7	特別支援学校 28.6
年齢	0～5 歳	幼稚園、保育所、小中学校の普通学級 82.4	自宅にいる 17.6	福祉施設 3.9
	6～11 歳	小中学校の特別支援学級 51.9	幼稚園、保育所、小中学校の普通学級 44.4	特別支援学校 12.3
	12～17 歳	特別支援学校 48.9	小中学校の特別支援学級 28.9	幼稚園、保育所、小中学校の普通学級 22.2
居住地域	本庁管内	幼稚園、保育所、小中学校の普通学級 50.4	小中学校の特別支援学級 33.3	特別支援学校 16.2
	嬉野・三雲管内	幼稚園、保育所、小中学校の普通学級 50.0	小中学校の特別支援学級／特別支援学校 24.0	
	飯南・飯高管内	幼稚園、保育所、小中学校の普通学級 80.0	小中学校の特別支援学級 20.0	
	その他	小中学校の特別支援学級 60.0	幼稚園、保育所、小中学校の普通学級／自宅にいる 20.0	
障がい等の区分	身体	幼稚園、保育所、小中学校の普通学級 44.1	特別支援学校 32.4	小中学校の特別支援学級 20.6
	知的	小中学校の特別支援学級 38.9	幼稚園、保育所、小中学校の普通学級／特別支援学校 33.3	
	精神	幼稚園、保育所、小中学校の普通学級／小中学校の特別支援学級 50.0	自宅にいる 25.0	
	その他	幼稚園、保育所、小中学校の普通学級 65.8	小中学校の特別支援学級 24.7	自宅にいる 11.0

(2) 日常生活での困りごと

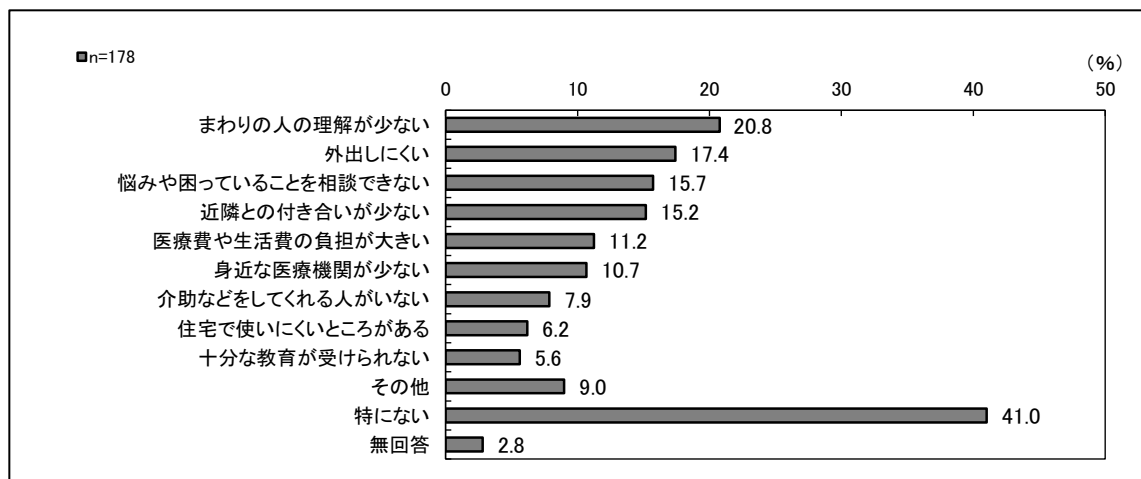
問 20 あて名のお子さんの日常生活において、困っていることは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

- 「まわりの人の理解が少ない」が第1位。「特にない」は41.0%を占める。

日常生活での困りごとについてたずねたところ、「まわりの人の理解が少ない」(20.8%)が最も多く、次いで「外出しにくい」(17.4%)、「悩みや困っていることを相談できない」(15.7%)、「近隣との付き合いが少ない」(15.2%)、「医療費や生活費の負担が大きい」(11.2%)、「身近な医療機関が少ない」(10.7%)、「介助などをしてくれる人がいない」(7.9%)、「住宅で使いにくいところがある」(6.2%)、「十分な教育が受けられない」(5.6%)となっている。なお、「特にない」は41.0%となっている。

年齢でみると、0～5歳では「外出しにくい」が第1位となっている。

図表 日常生活での困りごと（全体／複数回答）



図表 日常生活での困りごと（全体・属性別－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		まわりの人の理解が少ない 20.8	外出しにくい 17.4	悩みや困っていることを相談できない 15.7
性別	男性	まわりの人の理解が少ない 22.5	外出しにくい 18.6	近隣との付き合いが少ない 17.1
	女性	まわりの人の理解が少ない 16.3	悩みや困っていることを相談できない／外出しにくい／医療費や生活費の負担が大きい 14.3	
年齢	0～5歳	外出しにくい 25.5	近隣との付き合いが少ない／まわりの人の理解が少ない 13.7	
	6～11歳	まわりの人の理解が少ない 24.7	悩みや困っていることを相談できない 17.3	近隣との付き合いが少ない 14.8
	12～17歳	まわりの人の理解が少ない 22.2	悩みや困っていることを相談できない／近隣との付き合いが少ない／外出しにくい 17.8	
居住地域	本庁管内	外出しにくい／まわりの人の理解が少ない 20.5	悩みや困っていることを相談できない 18.8	
	嬉野・三雲管内	まわりの人の理解が少ない 24.0	身近な医療機関が少ない 16.0	近隣との付き合いが少ない 14.0
	飯南・飯高管内	身近な医療機関が少ない 40.0	介助などをしてくれる人がいない／近隣との付き合いが少ない／十分な教育が受けられない／外出しにくい／医療費や生活費の負担が大きい／まわりの人の理解が少ない 20.0	
	その他	身近な医療機関が少ない 20.0		
障がい等の区分	身体	外出しにくい／医療費や生活費の負担が大きい 26.5	住宅で使いにくいところがある 23.5	
	知的	外出しにくい 26.4	まわりの人の理解が少ない 23.6	近隣との付き合いが少ない 22.2
	精神	身近な医療機関が少ない 75.0	医療費や生活費の負担が大きい 50.0	介助などをしてくれる人がいない／悩みや困っていることを相談できない／外出しにくい／まわりの人の理解が少ない 25.0
	その他	まわりの人の理解が少ない 20.5	悩みや困っていることを相談できない 15.1	近隣との付き合いが少ない 12.3

(3) 日常生活や困りごとを相談する人

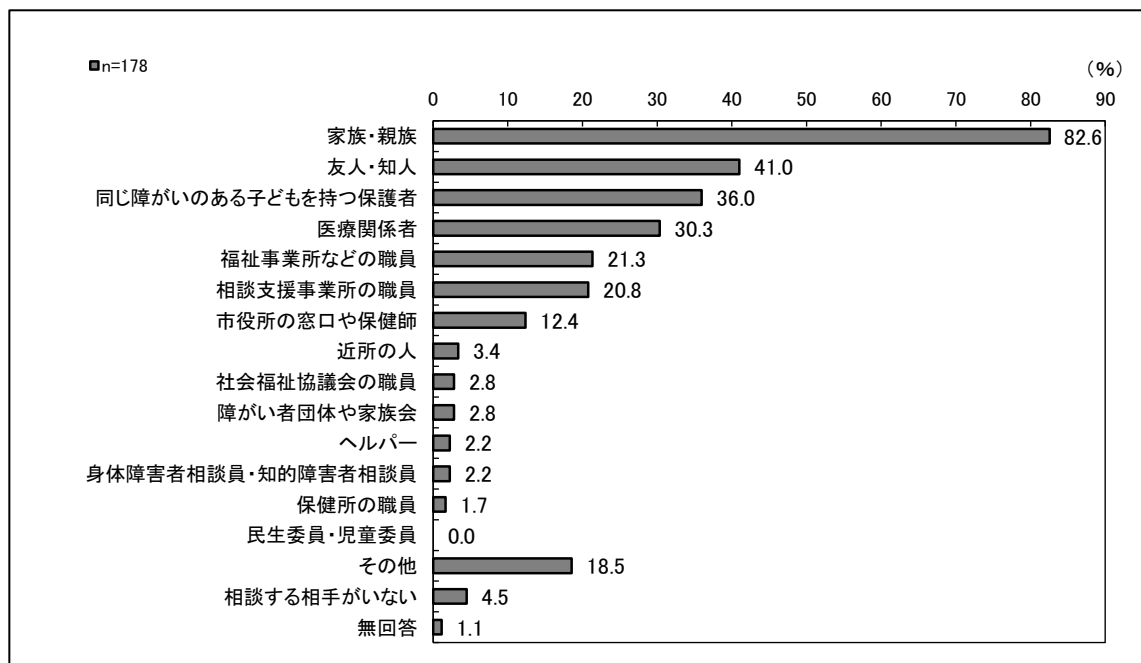
問 21 あて名のお子さんの日常生活や困ったことについて、誰に相談していますか。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

- 「家族・親族」が他を大きく引き離して第1位。

日常生活や困りごとを相談する人についてたずねたところ、「家族・親族」(82.6%)が最も多く、次いで「友人・知人」(41.0%)、「同じ障がいのある子どもを持つ保護者」(36.0%)、「医療関係者」(30.3%)、「福祉事業所などの職員」(21.3%)、「相談支援事業所の職員」(20.8%)、「市役所の窓口や保健師」(12.4%)、「近所の人」(3.4%)、「社会福祉協議会の職員」・「障がい者団体や家族会」(同率 2.8%)、「ヘルパー」(2.2%)、「身体障害者相談員・知的障害者相談員」(2.2%)、「保健所の職員」(1.7%)となっている。

すべての属性で「家族・親族」が第1位となっている。

図表 日常生活や困りごとを相談する人（全体／複数回答）



図表 日常生活や困りごとを相談する人（全体・属性別―上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		家族・親族 82.6	友人・知人 41.0	同じ障がいのある子ども を持つ保護者 36.0
性別	男性	家族・親族 82.2	友人・知人 40.3	同じ障がいのある子ども を持つ保護者 34.1
	女性	家族・親族 83.7	友人・知人 42.9	同じ障がいのある子ども を持つ保護者 40.8
年齢	0～5歳	家族・親族 90.2	友人・知人 43.1	同じ障がいのある子ども を持つ保護者／市役所の 窓口や保健師 29.4
	6～11歳	家族・親族 82.7	友人・知人 46.9	同じ障がいのある子ども を持つ保護者 43.2
	12～17歳	家族・親族 73.3	医療関係者 31.1	同じ障がいのある子ども を持つ保護者 28.9
居住地域	本庁管内	家族・親族 82.1	友人・知人 43.6	同じ障がいのある子ども を持つ保護者 38.5
	嬉野・三雲管内	家族・親族 84.0	友人・知人 38.0	同じ障がいのある子ども を持つ保護者 28.0
	飯南・飯高管内	家族・親族／医療関係者 80.0		市役所の窓口や保健師 40.0
	その他	家族・親族 80.0	同じ障がいのある子ども を持つ保護者 60.0	友人・知人 40.0
障がい等の区分	身体	家族・親族 88.2	医療関係者 50.0	同じ障がいのある子ども を持つ保護者 47.1
	知的	家族・親族 81.9	同じ障がいのある子ども を持つ保護者 38.9	友人・知人 34.7
	精神	家族・親族 75.0	福祉事業所などの職員／相談支援事業所の職員／医療関係者 50.0	
	その他	家族・親族 79.5	友人・知人 45.2	同じ障がいのある子ども を持つ保護者 31.5

(4) ボランティアに依頼したいこと

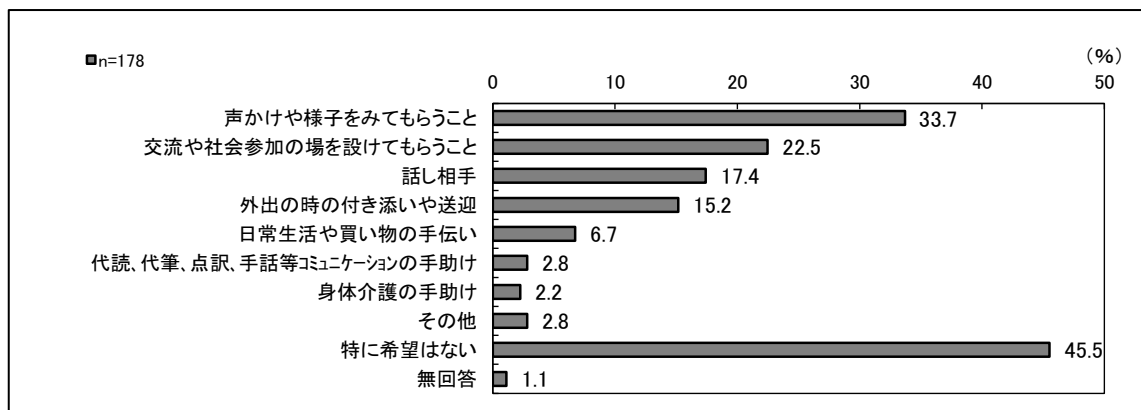
問 22 日常生活の中で、ボランティアにお願いしたいことはありますか。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

- 「声かけや様子をみてもらうこと」が第1位。「特に希望はない」は45.5%を占める。

ボランティアに依頼したいことについてたずねたところ、「声かけや様子をみてもらうこと」(33.7%)が最も多く、次いで「交流や社会参加の場を設けてもらうこと」(22.5%)、「話し相手」(17.4%)、「外出の時の付き添いや送迎」(15.2%)、「日常生活や買い物の手伝い」(6.7%)、「代読、代筆、点訳、手話等コミュニケーションの手助け」(2.8%)、「身体介護の手助け」(2.2%)となっている。なお、「特に希望はない」は45.5%となっている。

年齢でみると、12～17歳では「交流や社会参加の場を設けてもらうこと」が第1位となっている。

図表 ボランティアに依頼したいこと（全体／複数回答）



図表 ボランティアに依頼したいこと（全体・属性別—上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		声かけや様子をみてもらうこと 33.7	交流や社会参加の場を設けてもらうこと 22.5	話し相手 17.4
性別	男性	声かけや様子をみてもらうこと 35.7	交流や社会参加の場を設けてもらうこと 24.0	話し相手 16.3
	女性	声かけや様子をみてもらうこと 28.6	話し相手 20.4	交流や社会参加の場を設けてもらうこと 18.4
年齢	0～5歳	声かけや様子をみてもらうこと 23.5	外出の時の付き添いや送迎／交流や社会参加の場を設けてもらうこと 13.7	
	6～11歳	声かけや様子をみてもらうこと 43.2	交流や社会参加の場を設けてもらうこと 23.5	話し相手 22.2
	12～17歳	交流や社会参加の場を設けてもらうこと 31.1	声かけや様子をみてもらうこと 28.9	話し相手 22.2
居住地域	本庁管内	声かけや様子をみてもらうこと 33.3	交流や社会参加の場を設けてもらうこと 23.9	話し相手 19.7
	嬉野・三雲管内	声かけや様子をみてもらうこと 38.0	交流や社会参加の場を設けてもらうこと 20.0	話し相手 16.0
	飯南・飯高管内	声かけや様子をみてもらうこと／外出の時の付き添いや送迎／日常生活や買い物の手伝い／交流や社会参加の場を設けてもらうこと 20.0		
	その他	声かけや様子をみてもらうこと／交流や社会参加の場を設けてもらうこと 20.0		
障がい等の区分	身体	声かけや様子をみてもらうこと 32.4	交流や社会参加の場を設けてもらうこと 23.5	外出の時の付き添いや送迎 17.6
	知的	声かけや様子をみてもらうこと 40.3	交流や社会参加の場を設けてもらうこと 29.2	外出の時の付き添いや送迎 20.8
	精神	話し相手 50.0	声かけや様子をみてもらうこと／交流や社会参加の場を設けてもらうこと 25.0	
	その他	声かけや様子をみてもらうこと 30.1	話し相手 17.8	交流や社会参加の場を設けてもらうこと 13.7

5 住まいの状況や外出について

(1) 現在の住まいで困っていること

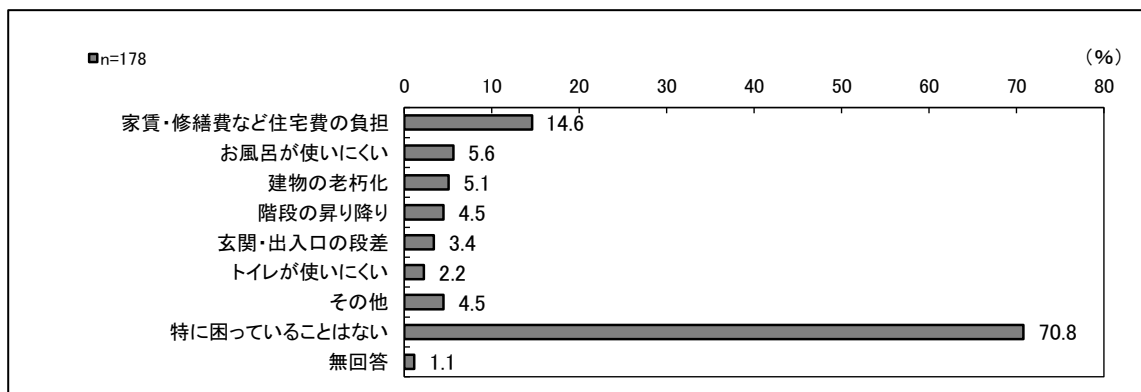
問 23 現在の住まいで困っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)【複数回答】



- 「家賃・修繕費など住宅費の負担」が第1位。「特に困っていることはない」は70.8%を占める。

現在の住まいで困っていることについてたずねたところ、「家賃・修繕費など住宅費の負担」(14.6%)が最も多く、次いで「お風呂が使いにくい」(5.6%)、「建物の老朽化」(5.1%)、「階段の昇り降り」(4.5%)、「玄関・出入口の段差」(3.4%)、「トイレが使いにくい」(2.2%)となっている。なお、「特に困っていることはない」は70.8%となっている。

図表 現在の住まいで困っていること（全体／複数回答）



図表 現在の住まいで困っていること（全体・属性別—上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		家賃・修繕費など住宅費の負担 14.6	お風呂が使いにくい 5.6	建物の老朽化 5.1
性別	男性	家賃・修繕費など住宅費の負担 16.3	お風呂が使いにくい／建物の老朽化 5.4	
	女性	家賃・修繕費など住宅費の負担 10.2	お風呂が使いにくい 6.1	階段の昇り降り／トイレが使いにくい／建物の老朽化 4.1
年齢	0～5歳	家賃・修繕費など住宅費の負担 13.7	階段の昇り降り 7.8	お風呂が使いにくい 5.9
	6～11歳	家賃・修繕費など住宅費の負担 16.0	建物の老朽化 8.6	お風呂が使いにくい 6.2
	12～17歳	家賃・修繕費など住宅費の負担 13.3	お風呂が使いにくい 4.4	階段の昇り降り／玄関・出入口の段差／トイレが使いにくい／建物の老朽化 2.2
居住地域	本庁管内	家賃・修繕費など住宅費の負担 17.9	お風呂が使いにくい 8.5	階段の昇り降り／建物の老朽化 6.0
	嬉野・三雲管内	家賃・修繕費など住宅費の負担 8.0	階段の昇り降り／トイレが使いにくい／建物の老朽化 2.0	
	飯南・飯高管内			
	その他	建物の老朽化／家賃・修繕費など住宅費の負担 20.0		
障がい等の区分	身体	階段の昇り降り／お風呂が使いにくい 17.6		玄関・出入口の段差 14.7
	知的	家賃・修繕費など住宅費の負担 19.4	建物の老朽化 9.7	お風呂が使いにくい 5.6
	精神	家賃・修繕費など住宅費の負担 25.0		
	その他	家賃・修繕費など住宅費の負担 9.6	階段の昇り降り 2.7	玄関・出入口の段差／お風呂が使いにくい／建物の老朽化 1.4

(2) 外出先で不便を感じる事・困っている事

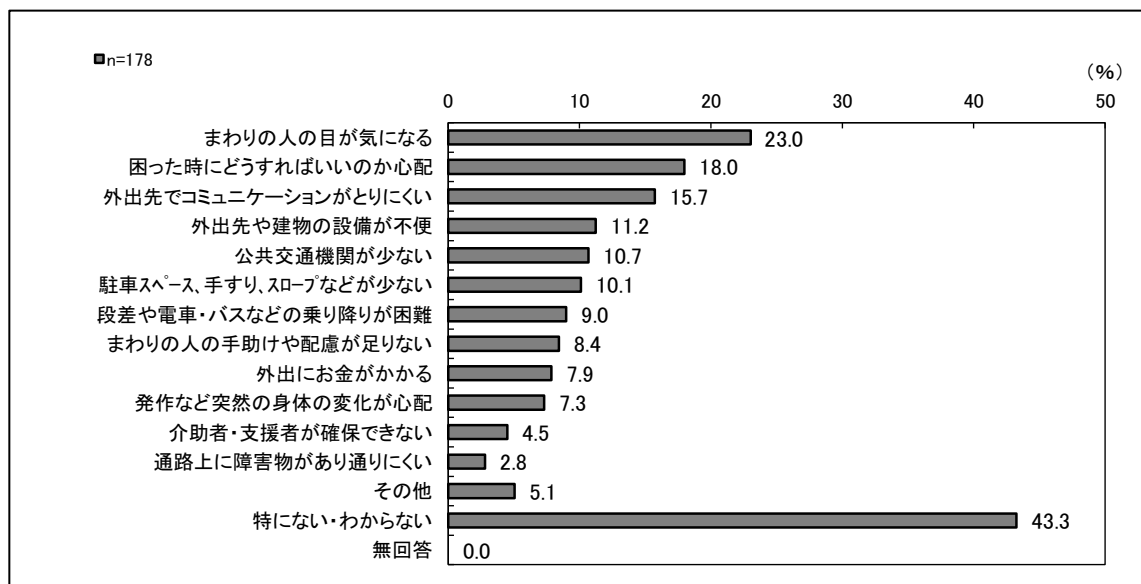
問 24 外出先で不便に感じていることや困っていることは何(なん)ですか。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

- 「まわりの人の目が気になる」が第1位。「特にない・わからない」は43.3%を占める。

外出先で不便を感じる事・困っている事についてたずねたところ、「まわりの人の目が気になる」(23.0%)が最も多く、次いで「困った時にどうすればいいのか心配」(18.0%)、「外出先でコミュニケーションがとりにくい」(15.7%)、「外出先や建物の設備が不便」(11.2%)、「公共交通機関が少ない」(10.7%)、「駐車スペース、手すり、スロープなどが少ない」(10.1%)、「段差や電車・バスなどの乗り降りが困難」(9.0%)、「まわりの人の手助けや配慮が足りない」(8.4%)、「外出にお金がかかる」(7.9%)、「発作など突然の身体の変化が心配」(7.3%)、「介助者・支援者が確保できない」(4.5%)、「通路上に障害物があり通りにくい」(2.8%)となっている。なお、「特にない・わからない」は43.3%となっている。

年齢でみると、6～11歳では「困った時にどうすればいいのか心配」が第1位となっている。

図表 外出先で不便を感じる事・困っている事（全体／複数回答）



図表 外出先で不便を感じること・困っていること（全体・属性別－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		まわりの人の目が気になる 23.0	困った時にどうすればいいのか心配 18.0	外出先でコミュニケーションがとりにくい 15.7
性別	男性	まわりの人の目が気になる 23.3	外出先でコミュニケーションがとりにくい／困った時にどうすればいいのか心配 17.1	
	女性	まわりの人の目が気になる 22.4	困った時にどうすればいいのか心配 20.4	段差や電車・バスなどの乗り降りが困難／駐車スペース、手すり、スロープなどが少ない 14.3
年齢	0～5歳	まわりの人の目が気になる 29.4	駐車スペース、手すり、スロープなどが少ない 13.7	外出先や建物の設備が不便 11.8
	6～11歳	困った時にどうすればいいのか心配 18.5	まわりの人の目が気になる 17.3	外出先でコミュニケーションがとりにくい 14.8
	12～17歳	まわりの人の目が気になる／困った時にどうすればいいのか心配 26.7		外出先でコミュニケーションがとりにくい 24.4
居住地域	本庁管内	まわりの人の目が気になる 23.1	困った時にどうすればいいのか心配 17.9	外出先でコミュニケーションがとりにくい 14.5
	嬉野・三雲管内	まわりの人の目が気になる 26.0	困った時にどうすればいいのか心配 20.0	外出先でコミュニケーションがとりにくい 18.0
	飯南・飯高管内	公共交通機関が少ない 40.0	駐車スペース、手すり、スロープなどが少ない／介助者・支援者が確保できない／外出先でコミュニケーションがとりにくい／まわりの人の手助けや配慮が足りない／まわりの人の目が気になる／外出にお金がかかる 20.0	
	その他	外出先でコミュニケーションがとりにくい／困った時にどうすればいいのか心配 20.0		
障がい等の区分	身体	外出先や建物の設備が不便 44.1	段差や電車・バスなどの乗り降りが困難 41.2	駐車スペース、手すり、スロープなどが少ない 38.2
	知的	まわりの人の目が気になる 31.9	外出先でコミュニケーションがとりにくい／困った時にどうすればいいのか心配 26.4	
	精神	公共交通機関が少ない 50.0	介助者・支援者が確保できない／外出先でコミュニケーションがとりにくい／外出にお金がかかる／発作など突然の身体の変化が心配／困った時にどうすればいいのか心配 25.0	
	その他	まわりの人の目が気になる 21.9	困った時にどうすればいいのか心配 11.0	外出先でコミュニケーションがとりにくい 8.2

6 災害時の避難などについて

(1) 災害時の対応における不安

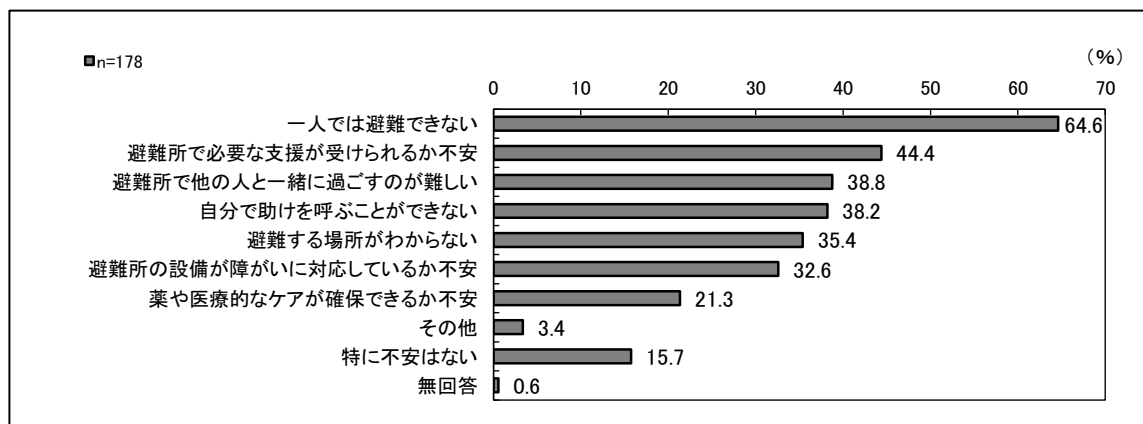
問 25 あて名のお子さんについて、災害時の対応として不安に感じていることは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

- 「一人では避難できない」が他を大きく引き離して第1位。

災害時の対応における不安についてたずねたところ、「一人では避難できない」(64.6%)が最も多く、次いで「避難所で必要な支援が受けられるか不安」(44.4%)、「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」(38.8%)、「自分で助けを呼ぶことができない」(38.2%)、「避難する場所がわからない」(35.4%)、「避難所の設備が障がいに対応しているか不安」(32.6%)、「薬や医療的なケアが確保できるか不安」(21.3%)となっている。なお、「特に不安はない」は15.7%となっている。

多くの属性で「一人では避難できない」が第1位となっている。

図表 災害時の対応における不安（全体／複数回答）



図表 災害時の対応における不安（全体・属性別－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		一人では避難できない 64.6	避難所で必要な支援が受けられるか不安 44.4	避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい 38.8
性別	男性	一人では避難できない 62.0	避難所で必要な支援が受けられるか不安 42.6	自分で助けを呼ぶことができない 38.8
	女性	一人では避難できない 71.4	避難所で必要な支援が受けられるか不安 49.0	避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい 49.0
年齢	0～5歳	一人では避難できない 62.7	自分で助けを呼ぶことができない／避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい 43.1	
	6～11歳	一人では避難できない 75.3	避難所で必要な支援が受けられるか不安 45.7	自分で助けを呼ぶことができない 39.5
	12～17歳	一人では避難できない 48.9	避難所で必要な支援が受けられるか不安 46.7	避難する場所がわからない／避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい 35.6
居住地域	本庁管内	一人では避難できない 62.4	避難所で必要な支援が受けられるか不安 45.3	避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい 39.3
	嬉野・三雲管内	一人では避難できない 72.0	自分で助けを呼ぶことができない 46.0	避難所で必要な支援が受けられるか不安 42.0
	飯南・飯高管内	避難所で必要な支援が受けられるか不安／薬や医療的なケアが確保できるか不安 60.0		避難所の設備が障がいに対応しているか不安／避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい 40.0
	その他	一人では避難できない 80.0	避難する場所がわからない／自分で助けを呼ぶことができない 40.0	
障がい等の区分	身体	一人では避難できない／避難所で必要な支援が受けられるか不安 79.4		避難所の設備が障がいに対応しているか不安 61.8
	知的	一人では避難できない 68.1	避難所で必要な支援が受けられるか不安 52.8	避難する場所がわからない／自分で助けを呼ぶことができない 48.6
	精神	薬や医療的なケアが確保できるか不安 75.0	一人では避難できない／避難所で必要な支援が受けられるか不安／避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい 50.0	
	その他	一人では避難できない 57.5	避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい 35.6	避難する場所がわからない 32.9

(2) 災害に備えて市が力を入れるべき取り組み

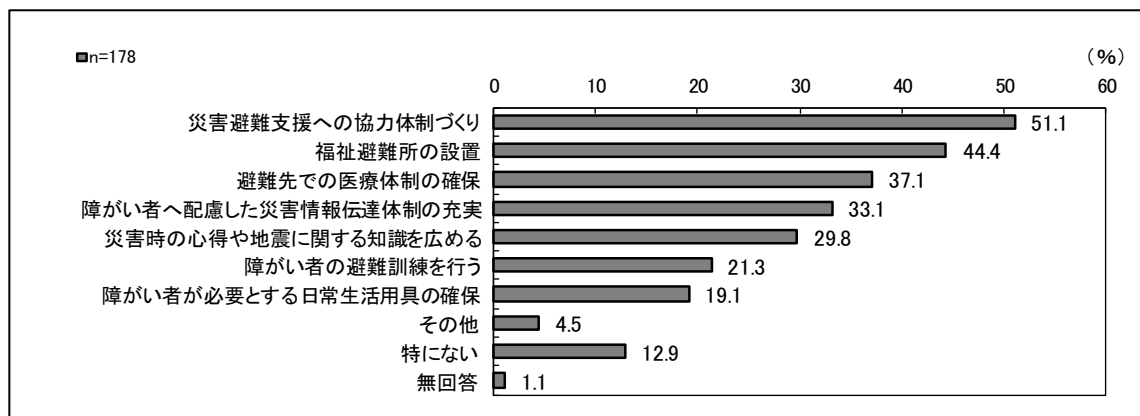
問 26 災害に備えて、市はどのようなことに力を入れる必要があると思いますか。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

- 「災害避難支援への協力体制づくり」が第1位。「福祉避難所の設置」、「避難先での医療体制の確保」などが続く。

災害に備えて市が力を入れるべき取り組みについてたずねたところ、「災害避難支援への協力体制づくり」(51.1%)が最も多く、次いで「福祉避難所の設置」(44.4%)、「避難先での医療体制の確保」(37.1%)、「障がい者へ配慮した災害情報伝達体制の充実」(33.1%)、「災害時の心得や地震に関する知識を広める」(29.8%)、「障がい者の避難訓練を行う」(21.3%)、「障がい者が必要とする日常生活用具の確保」(19.1%)となっている。なお、「特にない」は12.9%となっている。

年齢でみると、0～5歳では「避難先での医療体制の確保」が第1位となっているのに対し、6～11歳では「災害避難支援への協力体制づくり」が第1位となっている。12～17歳では「災害避難支援への協力体制づくり」と「福祉避難所の設置」が同率で第1位となっている。

図表 災害に備えて市が力を入れるべき取り組み（全体／複数回答）



図表 災害に備えて市が力を入れるべき取り組み（全体・属性別－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		災害避難支援への協力体制づくり 51.1	福祉避難所の設置 44.4	避難先での医療体制の確保 37.1
性別	男性	災害避難支援への協力体制づくり 45.7	福祉避難所の設置 42.6	避難先での医療体制の確保 38.8
	女性	災害避難支援への協力体制づくり 65.3	福祉避難所の設置 49.0	障がい者へ配慮した災害情報伝達体制の充実 34.7
年齢	0～5歳	避難先での医療体制の確保 45.1	福祉避難所の設置 41.2	災害避難支援への協力体制づくり 37.3
	6～11歳	災害避難支援への協力体制づくり 61.7	福祉避難所の設置 44.4	避難先での医療体制の確保 37.0
	12～17歳	災害避難支援への協力体制づくり／福祉避難所の設置 48.9	災害時の心得や地震に関する知識を広める／障がい者へ配慮した災害情報伝達体制の充実／避難先での医療体制の確保 28.9	
居住地域	本庁管内	災害避難支援への協力体制づくり 53.0	福祉避難所の設置 47.0	避難先での医療体制の確保 38.5
	嬉野・三雲管内	災害避難支援への協力体制づくり 46.0	福祉避難所の設置 44.0	避難先での医療体制の確保 34.0
	飯南・飯高管内	災害避難支援への協力体制づくり／避難先での医療体制の確保 60.0	障がい者の避難訓練を行う／災害時の心得や地震に関する知識を広める／障がい者へ配慮した災害情報伝達体制の充実 40.0	
	その他	災害時の心得や地震に関する知識を広める 60.0	災害避難支援への協力体制づくり 40.0	障がい者へ配慮した災害情報伝達体制の充実 20.0
障がい等の区分	身体	災害避難支援への協力体制づくり 61.8	避難先での医療体制の確保 55.9	福祉避難所の設置 50.0
	知的	災害避難支援への協力体制づくり 59.7	福祉避難所の設置 50.0	障がい者へ配慮した災害情報伝達体制の充実 45.8
	精神	災害避難支援への協力体制づくり／福祉避難所の設置／避難先での医療体制の確保 75.0		
	その他	福祉避難所の設置 39.7	災害避難支援への協力体制づくり 38.4	避難先での医療体制の確保 32.9

7 障がいのある人に対する理解について

(1) 障がいのある人に対する人々の理解は進んでいると思うか

問 27 障がいのある人に対する人々の理解は進んでいると思いますか。(1 つに○)

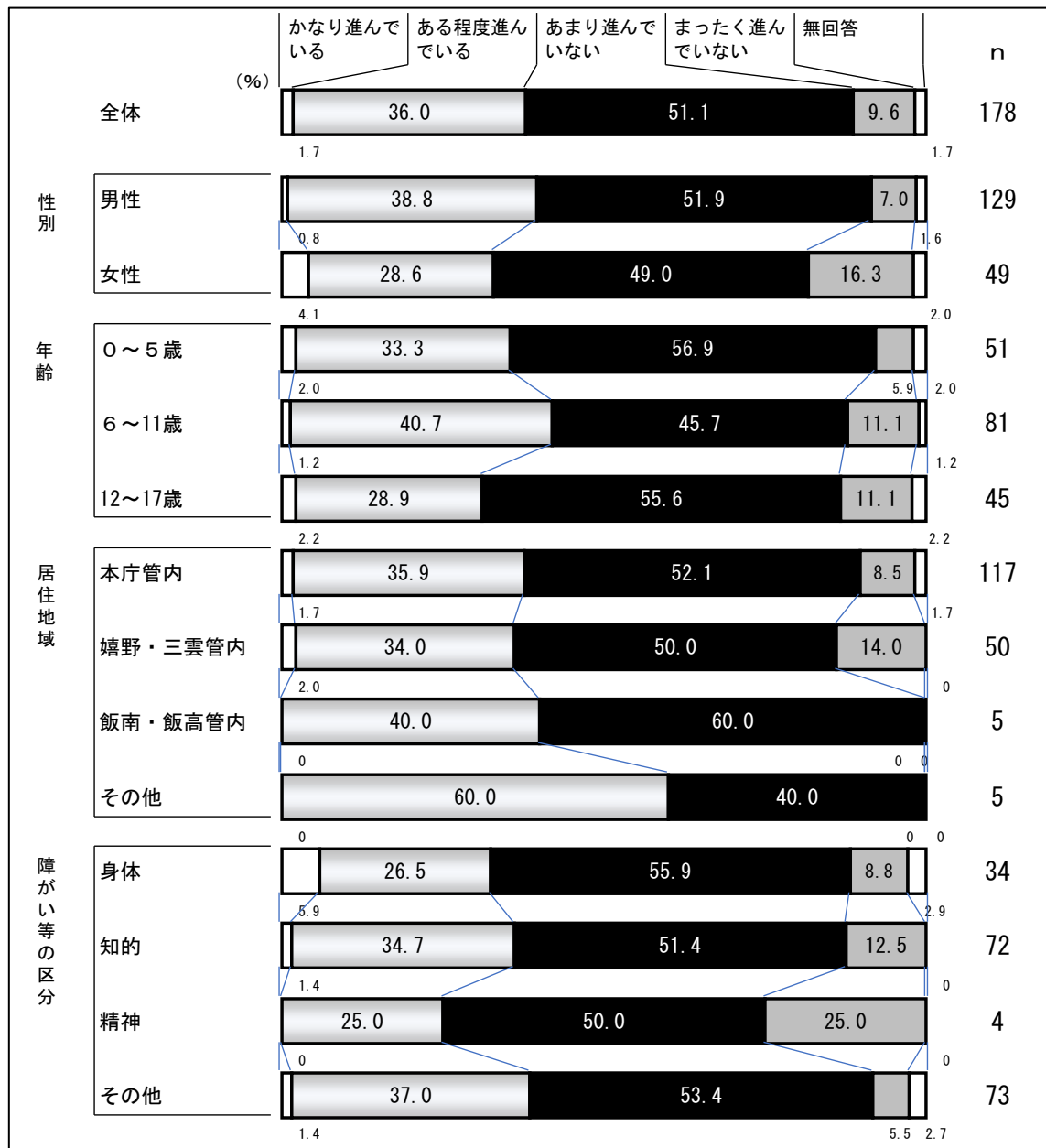


- “進んでいない” が 6 割強、“進んでいる” が 4 割弱を占める。

障がいのある人に対する人々の理解は進んでいると思うかたずねたところ、「かなり進んでいる」(1.7%)と「ある程度進んでいる」(36.0%)を合わせた“進んでいる”が 37.7%、「あまり進んでいない」(51.1%)と「まったく進んでいない」(9.6%)を合わせた“進んでいない”が 60.7%となっている。

年齢でみると、6～11 歳では“進んでいる”が 41.9%となっており、他の年齢層よりも高くなっている。

図表 障がいのある人に対する人々の理解は進んでいると思うか



(2) 日常生活で差別や偏見を感じることはあるか

問 28 日頃の生活の中で、差別や偏見を感じることはありますか。(1つに○)



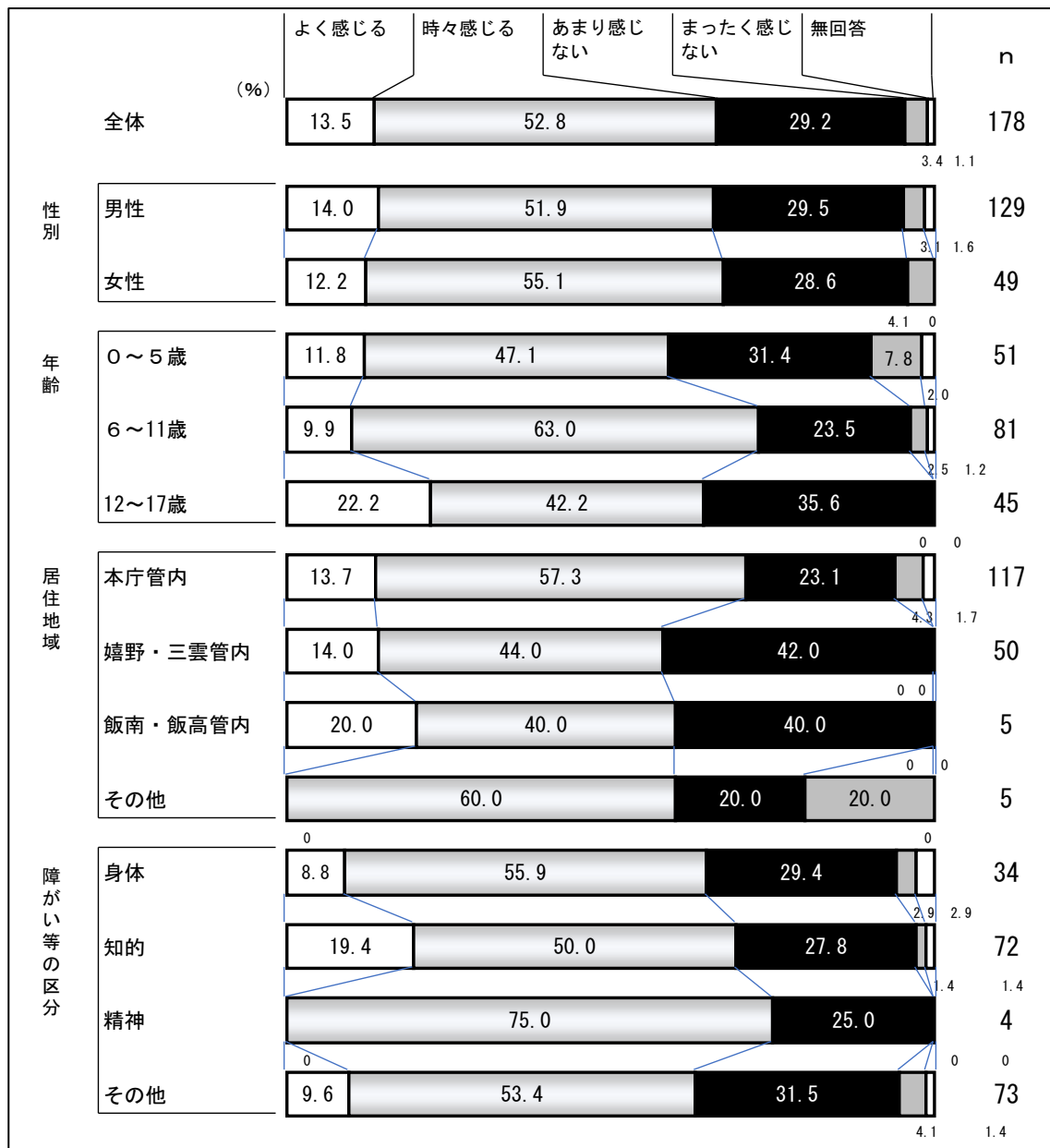
- “感じる” が7割弱、“感じない” が3割強を占める。

日常生活で差別や偏見を感じることはあるかたずねたところ、「よく感じる」(13.5%)と「時々感じる」(52.8%)を合わせた“感じる”が66.3%、「あまり感じない」(29.2%)と「まったく感じない」(3.4%)を合わせた“感じない”が32.6%となっている。

年齢でみると、6～11歳では“感じる”が72.9%となっており、他の年齢層よりも高くなっている。

居住地域でみると、本庁管内では“感じる”が71.0%となっている。

図表 日常生活で差別や偏見を感じることはあるか



(3) 差別や偏見を感じる場面

※問 28-1 は、問 28 で「1. よく感じる」、「2. 時々感じる」に○をつけた方にうかがいます
問 28-1 どのような点（場面）で差別や偏見を感じますか。（あてはまるものすべてに○）
【複数回答】



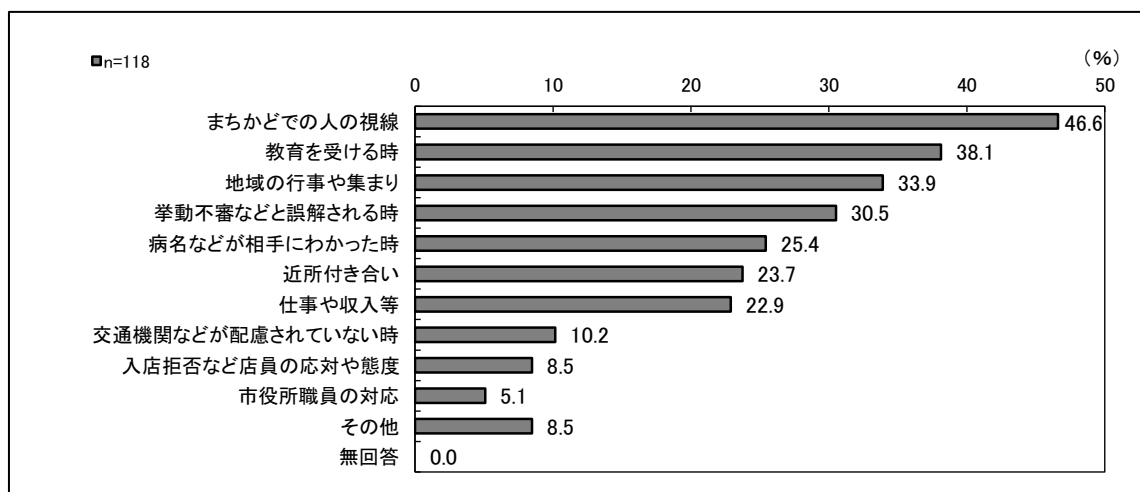
- 「まちかどでの人の視線」が第1位。「教育を受ける時」、「地域の行事や集まり」、「挙動不審など誤解される時」などが続く。

問 28 で「1. よく感じる」、「2. 時々感じる」と答えた人に差別や偏見を感じる場面についてたずねたところ、「まちかどでの人の視線」（46.6%）が最も多く、次いで「教育を受ける時」（38.1%）、「地域の行事や集まり」（33.9%）、「挙動不審など誤解される時」（30.5%）、「病名などが相手にわかった時」（25.4%）、「近所付き合い」（23.7%）、「仕事や収入等」（22.9%）、「交通機関などが配慮されていない時」（10.2%）、「入店拒否など店員の対応や態度」（8.5%）、「市役所職員の対応」（5.1%）の順となっている。

年齢でみると、6～11歳では「教育を受ける時」が第1位となっている。

障がい等の区分でみると、精神では「教育を受ける時」が第1位となっている。

図表 差別や偏見を感じる場面（全体／複数回答）



図表 差別や偏見を感じる場面（全体・属性別－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		まちかどでの人の視線 46.6	教育を受ける時 38.1	地域の行事や集まり 33.9
性別	男性	まちかどでの人の視線 45.9	教育を受ける時 41.2	地域の行事や集まり 32.9
	女性	まちかどでの人の視線 48.5	地域の行事や集まり 36.4	教育を受ける時 30.3
年齢	0～5歳	まちかどでの人の視線 56.7	教育を受ける時／仕事や収入等 30.0	
	6～11歳	教育を受ける時 47.5	まちかどでの人の視線 42.4	地域の行事や集まり 39.0
	12～17歳	まちかどでの人の視線 44.8	挙動不審などと誤解される時 41.4	地域の行事や集まり 37.9
居住地域	本庁管内	まちかどでの人の視線 45.8	教育を受ける時 36.1	地域の行事や集まり 32.5
	嬉野・三雲管内	まちかどでの人の視線 51.7	教育を受ける時 41.4	地域の行事や集まり 37.9
	飯南・飯高管内	まちかどでの人の視線／病名などが相手にわかった時／挙動不審などと誤解される時 66.7		
	その他	教育を受ける時 66.7	仕事や収入等／近所付き合い／地域の行事や集まり／病名などが相手にわかった時／挙動不審などと誤解される時 33.3	
障がい等の区分	身体	まちかどでの人の視線 50.0	地域の行事や集まり 40.9	仕事や収入等 36.4
	知的	まちかどでの人の視線 54.0	地域の行事や集まり 38.0	教育を受ける時 36.0
	精神	教育を受ける時 66.7	近所付き合い／地域の行事や集まり／挙動不審などと誤解される時 33.3	
	その他	まちかどでの人の視線 45.7	教育を受ける時 41.3	挙動不審などと誤解される時 37.0

8 障害福祉サービスなどの利用について

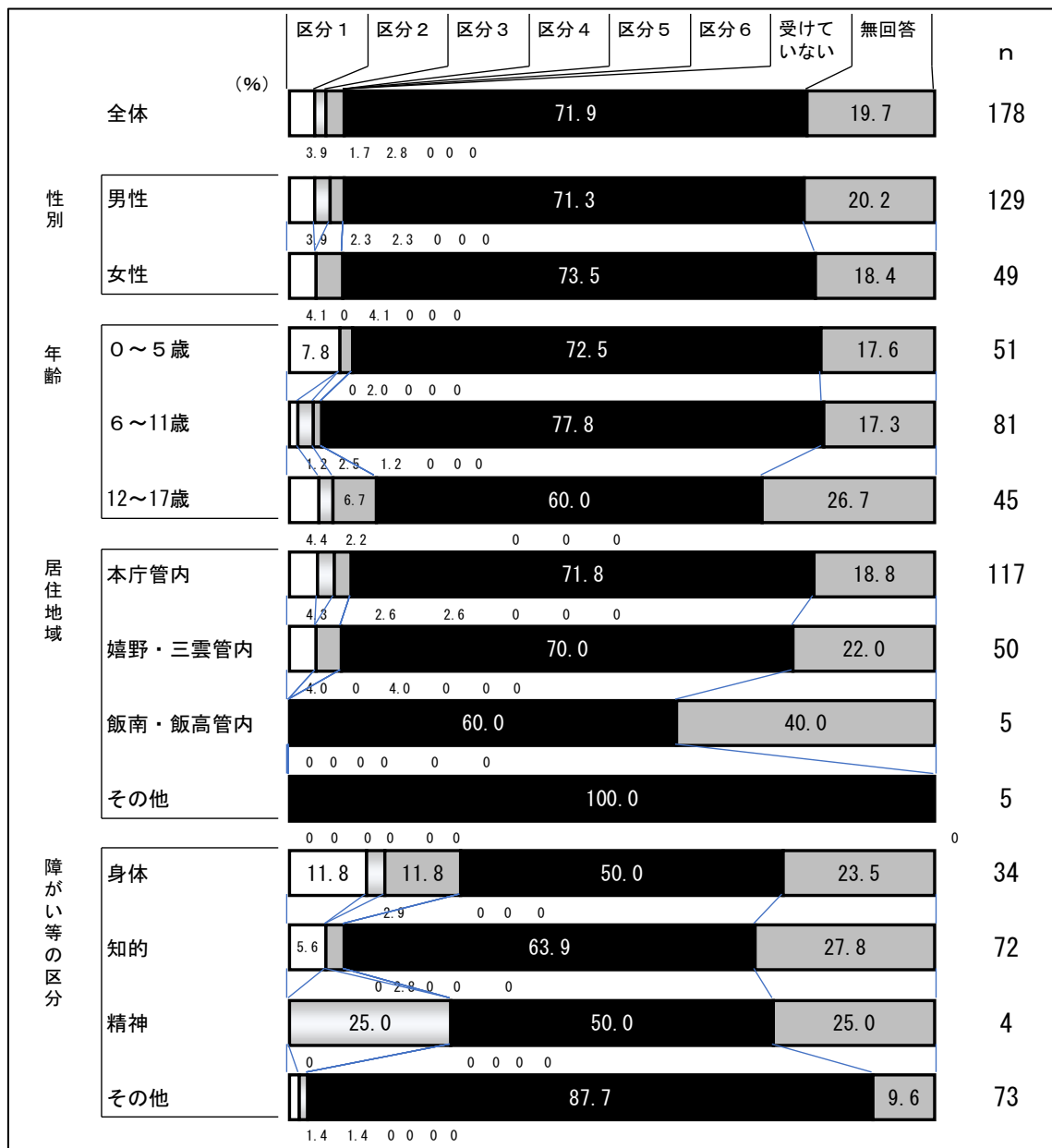
(1) 障害支援区分の認定を受けているか

問 29 あなたは障害支援区分の認定を受けていますか。(1つに○)

- 「受けていない」が7割強を占める。

障害支援区分の認定を受けているかたずねたところ、「区分1」が3.9%、「区分3」が2.8%、「区分2」が1.7%となっている。「受けていない」は71.9%となっている。

図表 障害支援区分の認定を受けているか



(2) 福祉制度やサービスを利用しているか

問 30 あて名のお子さんは障がいのある人のための福祉制度やサービスを利用していますか。(1つに○)

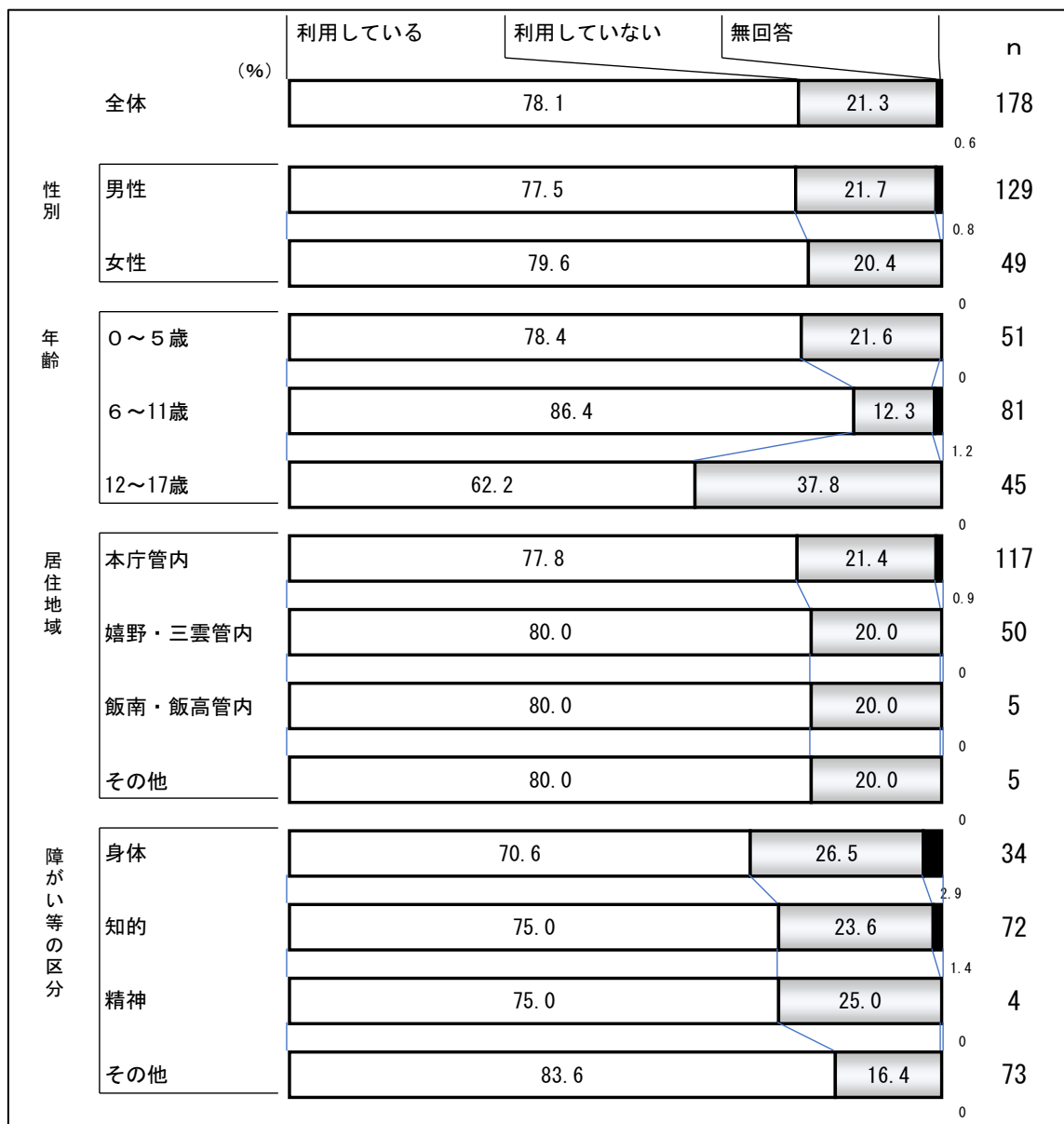


- 「利用している」が8割弱、「利用していない」が2割強を占める。

福祉制度やサービスを利用しているかたずねたところ、「利用している」が78.1%、「利用していない」が21.3%となっている。

年齢でみると、0～5歳では「利用している」が8割弱、6～11歳では9割弱を占めるのに対し、12～17歳では6割強にとどまっている。

図表 福祉制度やサービスを利用しているか



(3) 利用しているサービス

※問 30-1 は、問 30 で「1. 利用している」に○をつけた方にうかがいます。
問 30-1 利用している制度やサービスについてお答えください。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

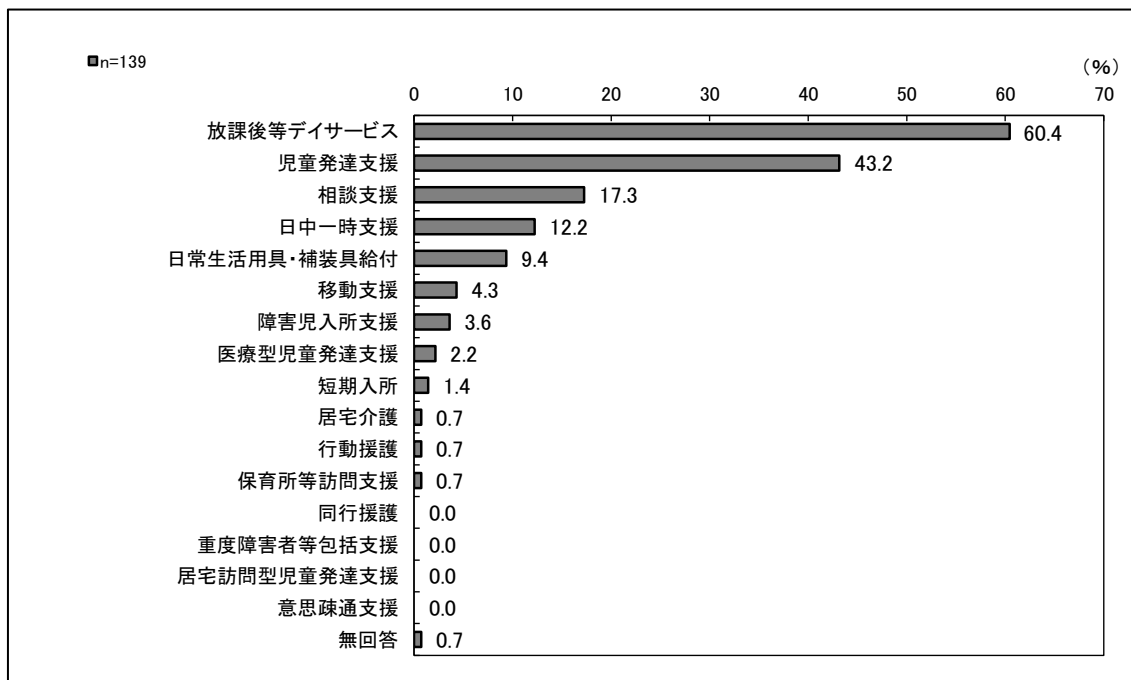
- 「放課後等デイサービス」が第1位。「児童発達支援」、「相談支援」などが続く。

利用しているサービスについては、「放課後等デイサービス」(60.4%)、「児童発達支援」(43.2%)、「相談支援」(17.3%)、「日中一時支援」(12.2%)、「日常生活用具・補装具給付」(9.4%)、「移動支援」(4.3%)、「障害児入所支援」(3.6%)、「医療型児童発達支援」(2.2%)、「短期入所」(1.4%)、「居宅介護」・「行動援護」・「保育所等訪問支援」(同率0.7%)の順となっている。

年齢でみると、0～5歳では「児童発達支援」が第1位となっている。

障がい等の区分でみると、その他では「児童発達支援」が第1位となっている。

図表 利用しているサービス（全体／複数回答）



図表 利用しているサービス（全体・属性別－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		放課後等デイサービス 60.4	児童発達支援 43.2	相談支援 17.3
性別	男性	放課後等デイサービス 54.0	児童発達支援 46.0	相談支援 15.0
	女性	放課後等デイサービス 76.9	児童発達支援 35.9	相談支援 23.1
年齢	0～5歳	児童発達支援 97.5	相談支援 20.0	日常生活用具・補装具給付 7.5
	6～11歳	放課後等デイサービス 82.9	児童発達支援 27.1	相談支援 12.9
	12～17歳	放課後等デイサービス 89.3	日中一時支援 39.3	相談支援 25.0
居住地域	本庁管内	放課後等デイサービス 63.7	児童発達支援 40.7	相談支援 17.6
	嬉野・三雲管内	児童発達支援／放課後等デイサービス 50.0		相談支援 17.5
	飯南・飯高管内	児童発達支援／放課後等デイサービス 50.0		相談支援／保育所等訪問支援 25.0
	その他	放課後等デイサービス 100.0	児童発達支援 25.0	
障がい等の区分	身体	放課後等デイサービス 62.5	日常生活用具・補装具給付 54.2	児童発達支援 37.5
	知的	放課後等デイサービス 70.4	児童発達支援 33.3	日中一時支援 20.4
	精神	放課後等デイサービス 100.0	相談支援／児童発達支援 33.3	
	その他	児童発達支援 52.5	放課後等デイサービス 50.8	相談支援 19.7

(4) 制度やサービスを利用する時に困っていること

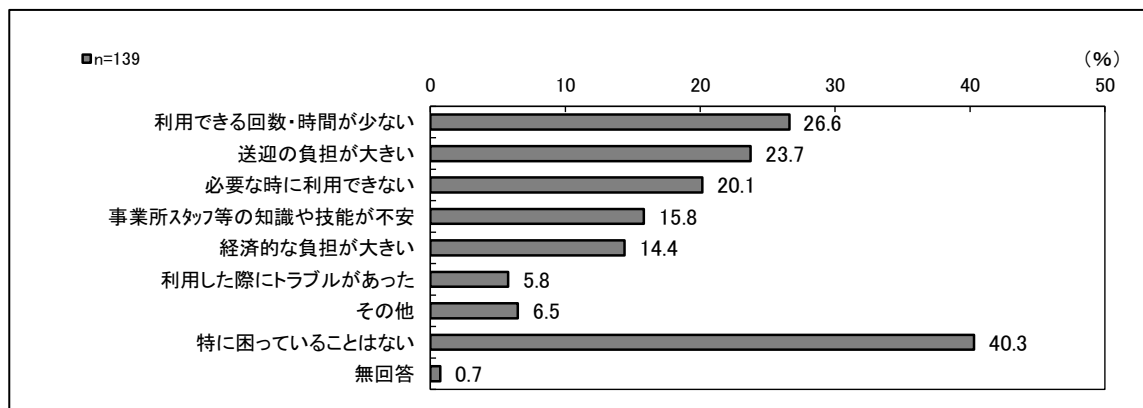
※問 30-2 は、問 30 で「1. 利用している」に○をつけた方にうかがいます。
問 30-2 制度やサービスを利用する時に困っていることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

- 「利用できる回数・時間が少ない」が第1位。「特に困っていることはない」は40.3%を占める。

制度やサービスを利用する時に困っていることについてたずねたところ、「利用できる回数・時間が少ない」(26.6%)が最も多く、次いで「送迎の負担が大きい」(23.7%)、「必要な時に利用できない」(20.1%)、「事業所スタッフ等の知識や技能が不安」(15.8%)、「経済的な負担が大きい」(14.4%)、「利用した際にトラブルがあった」(5.8%)となっている。なお、「特に困っていることはない」は40.3%となっている。

年齢でみると、0～5歳では「送迎の負担が大きい」が第1位となっているのに対し、6～11歳では「利用できる回数・時間が少ない」が第1位となっている。

図表 制度やサービスを利用する時に困っていること（全体／複数回答）



図表 制度やサービスを利用する時に困っていること（全体・属性別－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		利用できる回数・時間が少ない 26.6	送迎の負担が大きい 23.7	必要な時に利用できない 20.1
性別	男性	利用できる回数・時間が少ない 28.0	送迎の負担が大きい 24.0	必要な時に利用できない 23.0
	女性	利用できる回数・時間が少ない／送迎の負担が大きい 23.1	経済的な負担が大きい 20.5	
年齢	0～5歳	送迎の負担が大きい 35.0	利用できる回数・時間が少ない 30.0	経済的な負担が大きい 20.0
	6～11歳	利用できる回数・時間が少ない 30.0	必要な時に利用できない／事業所スタッフ等の知識や技能が不安 22.9	
	12～17歳	必要な時に利用できない／事業所スタッフ等の知識や技能が不安／送迎の負担が大きい 17.9		
居住地域	本庁管内	利用できる回数・時間が少ない 27.5	必要な時に利用できない 20.9	事業所スタッフ等の知識や技能が不安／送迎の負担が大きい 18.7
	嬉野・三雲管内	利用できる回数・時間が少ない／送迎の負担が大きい 27.5	経済的な負担が大きい 20.0	
	飯南・飯高管内	送迎の負担が大きい 75.0	経済的な負担が大きい／必要な時に利用できない／利用できる回数・時間が少ない 25.0	
	その他	送迎の負担が大きい 50.0	必要な時に利用できない 25.0	
障がい等の区分	身体	利用できる回数・時間が少ない 29.2	事業所スタッフ等の知識や技能が不安／送迎の負担が大きい 25.0	
	知的	利用できる回数・時間が少ない／送迎の負担が大きい 20.4	必要な時に利用できない／事業所スタッフ等の知識や技能が不安 18.5	
	精神	必要な時に利用できない／送迎の負担が大きい 66.7	経済的な負担が大きい／事業所スタッフ等の知識や技能が不安／利用した際にトラブルがあった／利用できる回数・時間が少ない 33.3	
	その他	利用できる回数・時間が少ない 31.1	送迎の負担が大きい 24.6	必要な時に利用できない 21.3

(5) 制度やサービスを利用しない理由

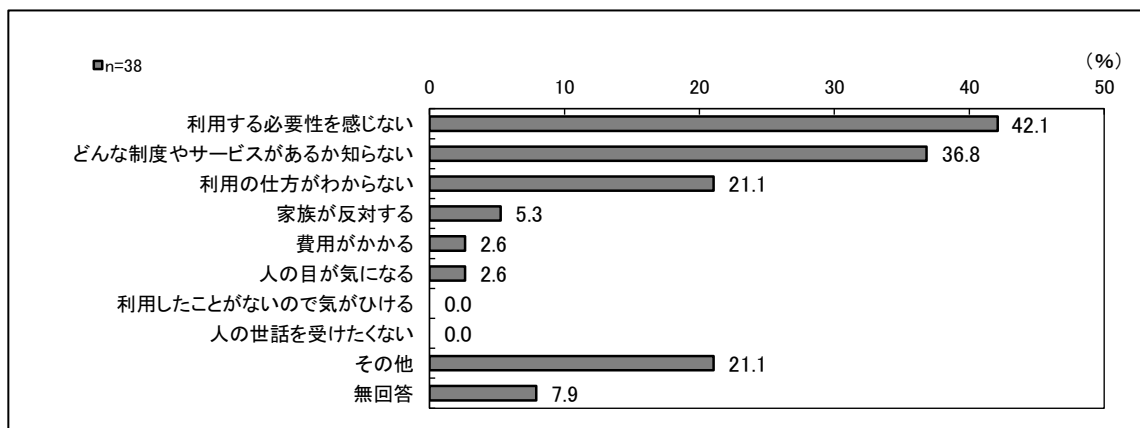
※問 30-3 は、問 30 で「2. 利用していない」に○をつけた方にうかがいます。
問 30-3 制度やサービスを利用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)
【複数回答】



- 「利用する必要性を感じない」が第1位。「どんな制度やサービスがあるか知らない」、「利用の仕方がわからない」などが続く。

問 30 で「2. 利用していない」と答えた人に、制度やサービスを利用しない理由についてたずねたところ、「利用する必要性を感じない」(42.1%)が最も多く、次いで「どんな制度やサービスがあるか知らない」(36.8%)、「利用の仕方がわからない」(21.1%)、「家族が反対する」(5.3%)、「費用がかかる」・「人の目が気になる」(同率 2.6%)となっている。

図表 制度やサービスを利用しない理由（全体／複数回答）



(6) 利用したいサービス

問 31 あて名のお子さんについて、次のサービスを今後利用したいと考えますか。(①から⑰についてそれぞれ1つに○)

- 「⑪ 放課後等デイサービス」、「⑧ 児童発達支援」、「⑨ 医療型児童発達支援」などの利用意向が高くなっている。

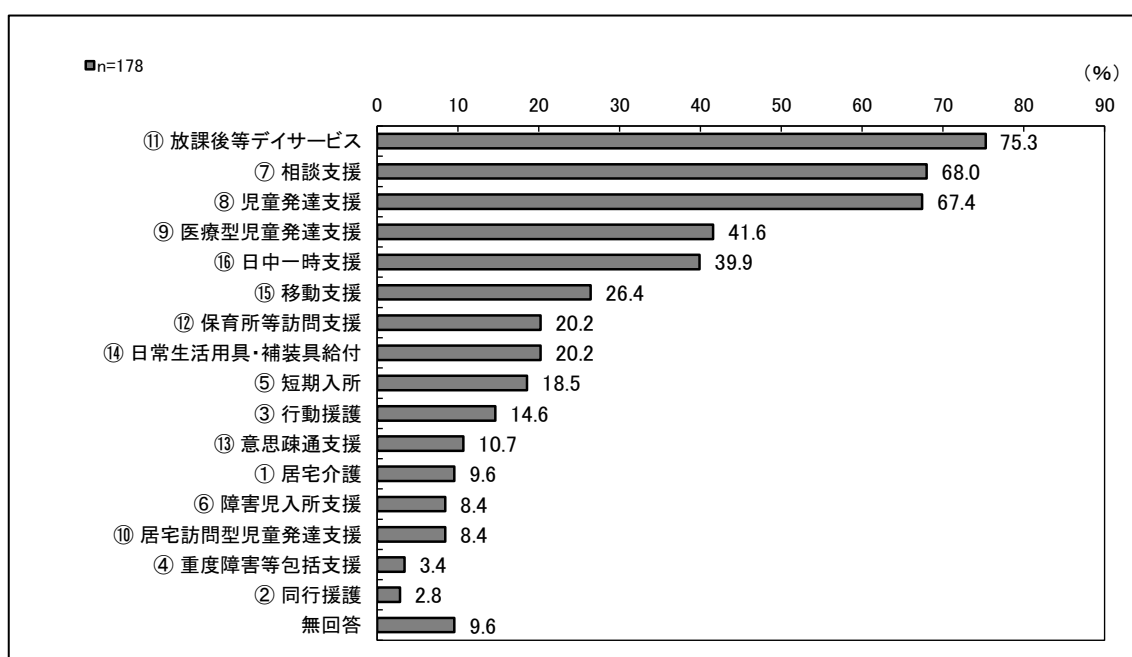
利用したいサービスについては、次表の通りとなっている。

図表 利用したいサービス

	(%)	利用したい	利用しない	わからない	無回答	n
① 居宅介護（ホームヘルプ）	9.6	68.0	19.7	2.8		178
② 同行援護	2.8	77.5	15.7	3.9		178
③ 行動援護	14.6	59.0	23.6	2.8		178
④ 重度障害等包括支援	3.4	77.0	16.9	2.8		178
⑤ 短期入所（ショートステイ）	18.5	60.7	18.0	2.8		178
⑥ 障害児入所支援（福祉型・医療型）	8.4	64.6	24.2	2.8		178
⑦ 相談支援		68.0	15.7	14.6	1.7	178
⑧ 児童発達支援		67.4	20.8	10.7	1.1	178
⑨ 医療型児童発達支援		41.5	38.8	16.9	2.8	178
⑩ 居宅訪問型児童発達支援	8.4	71.9	15.7	3.9		178
⑪ 放課後等デイサービス		75.3	14.6	9.0	1.1	178
⑫ 保育所等訪問支援	20.2	61.2	15.7	2.8		178
⑬ 意思疎通支援	10.7	67.4	19.1	2.8		178
⑭ 日常生活用具・補装具給付	20.2	65.2	11.2	3.4		178
⑮ 移動支援	26.4	56.7	14.6	2.2		178
⑯ 日中一時支援		39.9	41.0	16.9	2.2	178

また、サービスを利用したい人の多い順にみると、「⑪ 放課後等デイサービス」(75.3%)、「⑦ 相談支援」(68.0%)、「⑧ 児童発達支援」(67.4%)、「⑨ 医療型児童発達支援」(41.6%)、「⑯ 日中一時支援」(39.9%)、「⑮ 移動支援」(26.4%)、「⑫ 保育所等訪問支援」・「⑭ 日常生活用具・補装具給付」(同率 20.2%)、「⑤ 短期入所」(18.5%)、「③ 行動援護」(14.6%)、「⑬ 意思疎通支援」(10.7%)、「① 居宅介護」(9.6%)、「⑥ 障害児入所支援」・「⑩ 居宅訪問型児童発達支援」(同率 8.4%)、「④ 重度障害等包括支援」(3.4%)、「② 同行援護」(2.8%)となっている。

図表 利用したいサービス



(7) 障がいや福祉サービスなどに関する情報の入手先

問 32 障がいのことや福祉サービスなどに関する情報を、どこから入手していますか。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

- 「インターネット」が第1位。「サービス事業所の人や施設職員」、「通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生等」などが続く。

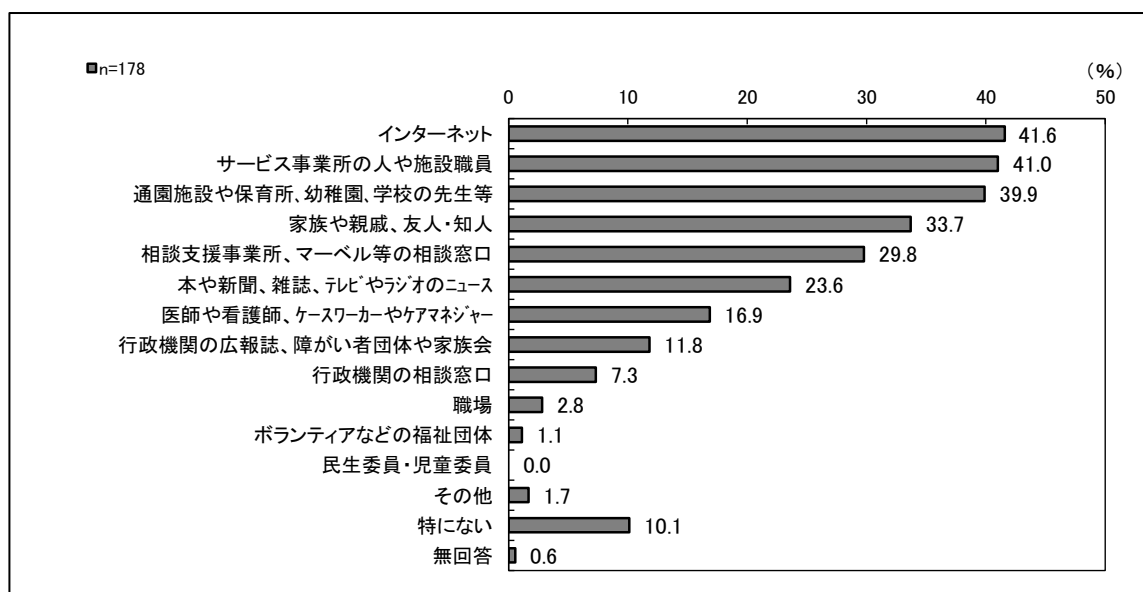
障がいや福祉サービスなどに関する情報の入手先については、「インターネット」(41.6%)が最も多く、次いで「サービス事業所の人や施設職員」(41.0%)、「通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生等」(39.9%)、「家族や親戚、友人・知人」(33.7%)、「相談支援事業所、マーベル等の相談窓口」(29.8%)、「本や新聞、雑誌、テレビやラジオのニュース」(23.6%)、「医師や看護師、ケースワーカーやケアマネジャー」(16.9%)、「行政機関の広報誌、障がい者団体や家族会」(11.8%)、「行政機関の相談窓口」(7.3%)、「職場」(2.8%)、「ボランティアなどの福祉団体」(1.1%)の順となっている。なお、「特にない」は10.1%となっている。

性別でみると、男性では「インターネット」と「サービス事業所の人や施設職員」が第1位となっているのに対し、女性では「通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生等」が第1位となっている。

年齢でみると、0～5歳では「サービス事業所の人や施設職員」が第1位となっているのに対し、6歳以上では「通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生等」が第1位となっている。

障がいの区分等でみると、身体では「家族や親戚、友人・知人」が第1位となっている。

図表 障がいや福祉サービスなどに関する情報の入手先（全体／複数回答）



図表 障がいや福祉サービスなどに関する情報の入手先
(全体・属性別－上位第3位／複数回答)

(単位：％)

		第1位	第2位	第3位
全体		インターネット 41.6	サービス事業所の人や施設職員 41.0	通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生等 39.9
性別	男性	インターネット／サービス事業所の人や施設職員 42.6	通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生等 38.8	
	女性	通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生等 42.9	インターネット 38.8	サービス事業所の人や施設職員 36.7
年齢	0～5歳	サービス事業所の人や施設職員 49.0	インターネット 45.1	家族や親戚、友人・知人 33.3
	6～11歳	通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生等 46.9	インターネット 44.4	サービス事業所の人や施設職員 43.2
	12～17歳	通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生等 37.8	相談支援事業所、マーベル等の相談窓口 35.6	インターネット 33.3
居住地域	本庁管内	インターネット／サービス事業所の人や施設職員 46.2	通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生等 43.6	
	嬉野・三雲管内	インターネット 36.0	通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生等 34.0	サービス事業所の人や施設職員 28.0
	飯南・飯高管内	サービス事業所の人や施設職員 80.0	家族や親戚、友人・知人／医師や看護師、ケースワーカーやケアマネジャー 60.0	
	その他	相談支援事業所、マーベル等の相談窓口 40.0	サービス事業所の人や施設職員／通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生等／職場 20.0	
障がい等の区分	身体	家族や親戚、友人・知人 61.8	医師や看護師、ケースワーカーやケアマネジャー 55.9	インターネット 44.1
	知的	通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生等 45.8	インターネット／サービス事業所の人や施設職員 37.5	
	精神	インターネット 75.0	サービス事業所の人や施設職員／医師や看護師、ケースワーカーやケアマネジャー／相談支援事業所、マーベル等の相談窓口 50.0	
	その他	サービス事業所の人や施設職員 46.6	インターネット 45.2	通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生等 34.2

(8) 特に充実してほしい情報

問 33 今後、特に充実してほしい情報は何か。(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

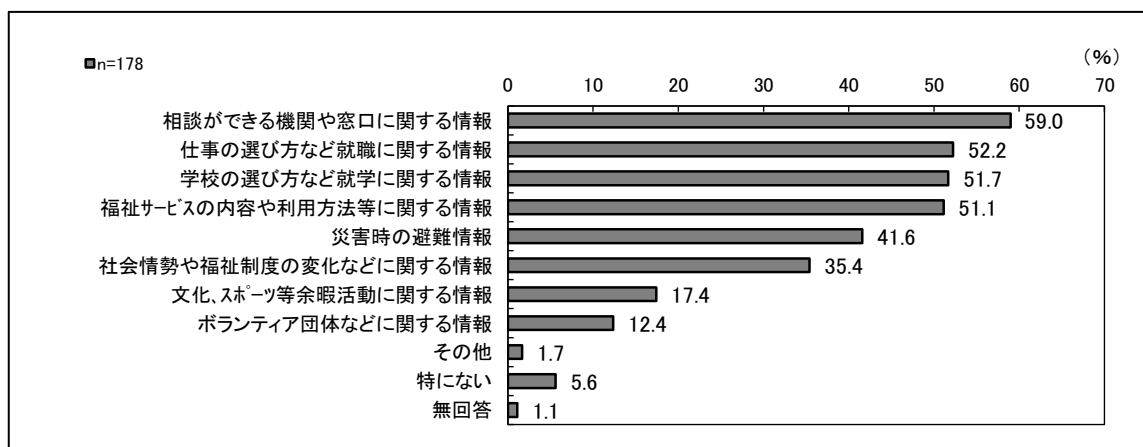


- 「相談ができる期間や窓口に関する情報」が第1位。「仕事の選び方など就職に関する情報」、「学校の選び方など就学に関する情報」、「福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報」などが続く。

特に充実してほしい情報についてたずねたところ、「相談ができる機関や窓口に関する情報」(59.0%)が最も多く、次いで「仕事の選び方など就職に関する情報」(52.2%)、「学校の選び方など就学に関する情報」(51.7%)、「福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報」(51.1%)、「災害時の避難情報」(41.6%)、「社会情勢や福祉制度の変化などに関する情報」(35.4%)、「文化、スポーツなど余暇活動に関する情報」(17.4%)、「ボランティア団体などに関する情報」(12.4%)となっている。

障がい等の区分でみると、身体では「福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報」が第1位となっている。

図表 特に充実してほしい情報（全体／複数回答）



図表 特に充実してほしい情報（全体・属性別－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		相談ができる機関や窓口に関する情報 59.0	仕事の選び方など就職に関する情報 52.2	学校の選び方など就学に関する情報 51.7
性別	男性	相談ができる機関や窓口に関する情報 61.2	学校の選び方など就学に関する情報 55.0	仕事の選び方など就職に関する情報 54.3
	女性	相談ができる機関や窓口に関する情報 53.1	福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報 49.0	仕事の選び方など就職に関する情報 46.9
年齢	0～5歳	相談ができる機関や窓口に関する情報／学校の選び方など就学に関する情報 60.8	福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報 58.8	
	6～11歳	仕事の選び方など就職に関する情報 59.3	学校の選び方など就学に関する情報 58.0	相談ができる機関や窓口に関する情報 56.8
	12～17歳	相談ができる機関や窓口に関する情報／仕事の選び方など就職に関する情報 62.2	災害時の避難情報 44.4	
居住地域	本庁管内	相談ができる機関や窓口に関する情報 64.1	学校の選び方など就学に関する情報 55.6	福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報 50.4
	嬉野・三雲管内	福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報／仕事の選び方など就職に関する情報 60.0	相談ができる機関や窓口に関する情報 50.0	
	飯南・飯高管内	相談ができる機関や窓口に関する情報／学校の選び方など就学に関する情報／仕事の選び方など就職に関する情報 60.0		
	その他	仕事の選び方など就職に関する情報 60.0	災害時の避難情報 40.0	社会情勢や福祉制度の変化などに関する情報／相談ができる機関や窓口に関する情報／学校の選び方など就学に関する情報 20.0
障がい等の区分	身体	福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報 67.6	相談ができる機関や窓口に関する情報 55.9	災害時の避難情報 50.0
	知的	相談ができる機関や窓口に関する情報 65.3	仕事の選び方など就職に関する情報 58.3	福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報／災害時の避難情報 51.4
	精神	相談ができる機関や窓口に関する情報／仕事の選び方など就職に関する情報 75.0		福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報／災害時の避難情報 50.0
	その他	学校の選び方など就学に関する情報 64.4	相談ができる機関や窓口に関する情報 56.2	仕事の選び方など就職に関する情報 53.4

(9) 住みやすいまちづくりのために必要な取り組み

問 34 障がいのある人もない人も、ともに住みやすいまちづくりを進めるために、どのような取り組みが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)【複数回答】



- 「就労支援の充実・働く場の確保」が第1位。「高齢者、障がい者、児童の施設サービスの充実」、「相談窓口や情報提供の充実」などが続く。

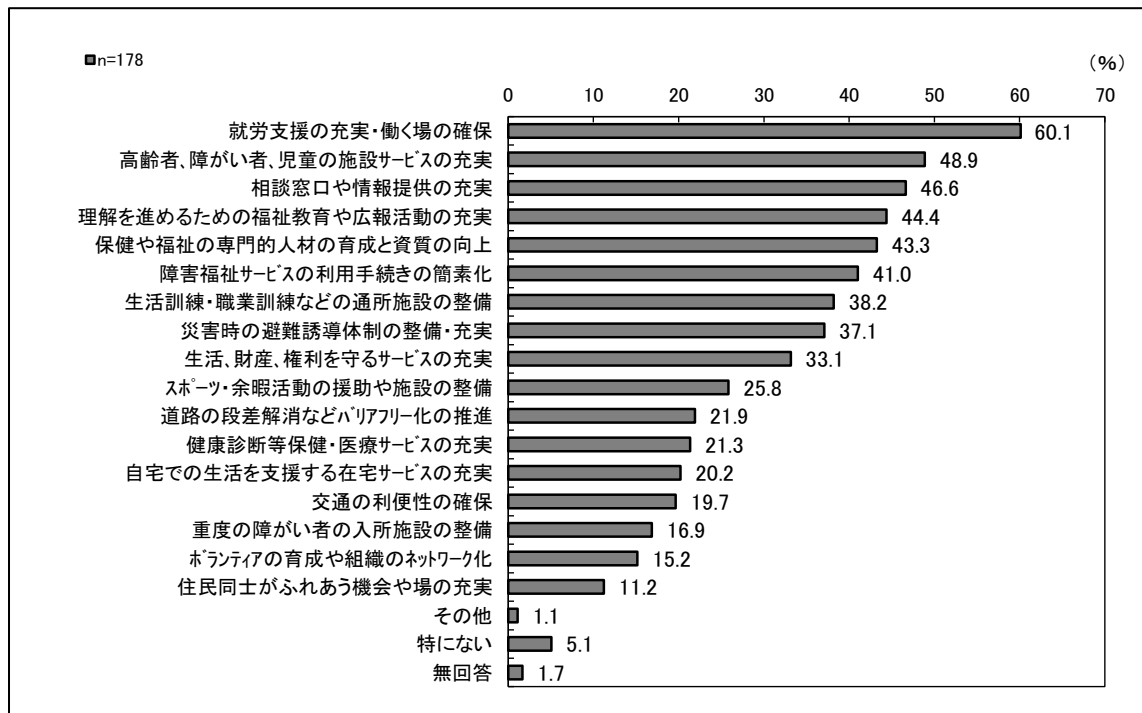
住みやすいまちづくりのために必要な取り組みについてたずねたところ、「就労支援の充実・働く場の確保」(60.1%)が最も多く、次いで「高齢者、障がい者、児童の施設サービスの充実」(48.9%)、「相談窓口や情報提供の充実」(46.6%)、「理解を進めるための福祉教育や広報活動の充実」(44.4%)、「保健や福祉の専門的人材の育成と資質の向上」(43.3%)、「障害福祉サービスの利用手続きの簡素化」(41.0%)、「生活訓練・職業訓練などの通所施設の整備」(38.2%)、「災害時の避難誘導体制の整備・充実」(37.1%)、「生活、財産、権利を守るサービスの充実」(33.1%)、「スポーツ・余暇活動の援助や施設の整備」(25.8%)、「道路の段差解消などバリアフリー化の推進」(21.9%)、「健康診断等保健・医療サービスの充実」(21.3%)、「自宅での生活を支援する在宅サービスの充実」(20.2%)、「交通の利便性の確保」(19.7%)、「重度の障がい者の入所施設の整備」(16.9%)、「ボランティアの育成や組織のネットワーク化」(15.2%)、「住民同士がふれあう機会や場の充実」(11.2%)の順となっている。

性別でみると、男性では「就労支援の充実・働く場の確保」が第1位となっているのに対し、女性では「相談窓口や情報提供の充実」が第1位となっている。

年齢でみると、0～5歳では「高齢者、障がい者、児童の施設サービスの充実」が第1位となっているのに対し、6歳以上では「就労支援の充実・働く場の確保」が第1位となっている。

障がい等の区分でみると、身体では「生活訓練・職業訓練などの通所施設の整備」が第1位となっている。

図表 住みやすいまちづくりのために必要な取り組み（全体／複数回答）



図表 住みやすいまちづくりのために必要な取り組み（全体・属性別－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		就労支援の充実・働く場の確保 60.1	高齢者、障がい者、児童の施設サービスの充実 48.9	相談窓口や情報提供の充実 46.6
性別	男性	就労支援の充実・働く場の確保 62.0	高齢者、障がい者、児童の施設サービスの充実 48.1	保健や福祉の専門的人材の育成と資質の向上 45.7
	女性	相談窓口や情報提供の充実 57.1	就労支援の充実・働く場の確保 55.1	高齢者、障がい者、児童の施設サービスの充実 51.0
年齢	0～5歳	高齢者、障がい者、児童の施設サービスの充実 58.8	相談窓口や情報提供の充実 52.9	就労支援の充実・働く場の確保 51.0
	6～11歳	就労支援の充実・働く場の確保 63.0	理解を進めるための福祉教育や広報活動の充実 56.8	高齢者、障がい者、児童の施設サービスの充実 49.4
	12～17歳	就労支援の充実・働く場の確保 66.7	相談窓口や情報提供の充実 51.1	障害福祉サービスの利用手続きの簡素化 40.0
居住地域	本庁管内	就労支援の充実・働く場の確保 58.1	相談窓口や情報提供の充実 49.6	高齢者、障がい者、児童の施設サービスの充実 48.7
	嬉野・三雲管内	就労支援の充実・働く場の確保 66.0	高齢者、障がい者、児童の施設サービスの充実 56.0	生活訓練・職業訓練などの通所施設の整備 46.0
	飯南・飯高管内	生活、財産、権利を守るサービスの充実／就労支援の充実・働く場の確保 80.0	理解を進めるための福祉教育や広報活動の充実／保健や福祉の専門的人材の育成と資質の向上 60.0	
	その他	理解を進めるための福祉教育や広報活動の充実／就労支援の充実・働く場の確保／相談窓口や情報提供の充実 40.0		
障がい等の区分	身体	生活訓練・職業訓練などの通所施設の整備 61.8	保健や福祉の専門的人材の育成と資質の向上 52.9	災害時の避難誘導体制の整備・充実 50.0
	知的	就労支援の充実・働く場の確保 69.4	高齢者、障がい者、児童の施設サービスの充実／相談窓口や情報提供の充実 52.8	
	精神	就労支援の充実・働く場の確保 100.0	高齢者、障がい者、児童の施設サービスの充実／生活訓練・職業訓練などの通所施設の整備／相談窓口や情報提供の充実 75.0	
	その他	就労支援の充実・働く場の確保 53.4	高齢者、障がい者、児童の施設サービスの充実 46.6	保健や福祉の専門的人材の育成と資質の向上 45.2